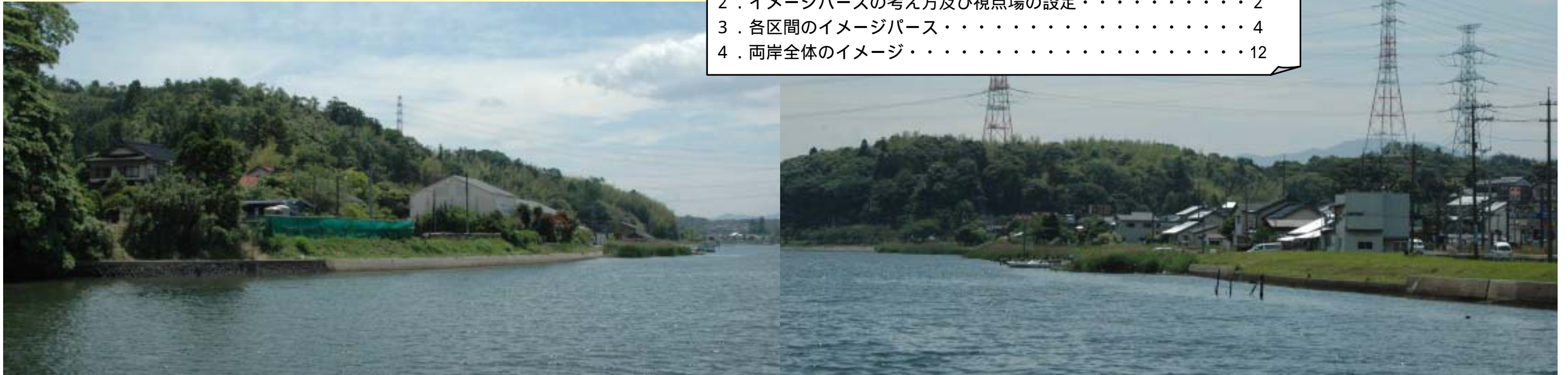


各区間のイメージパース

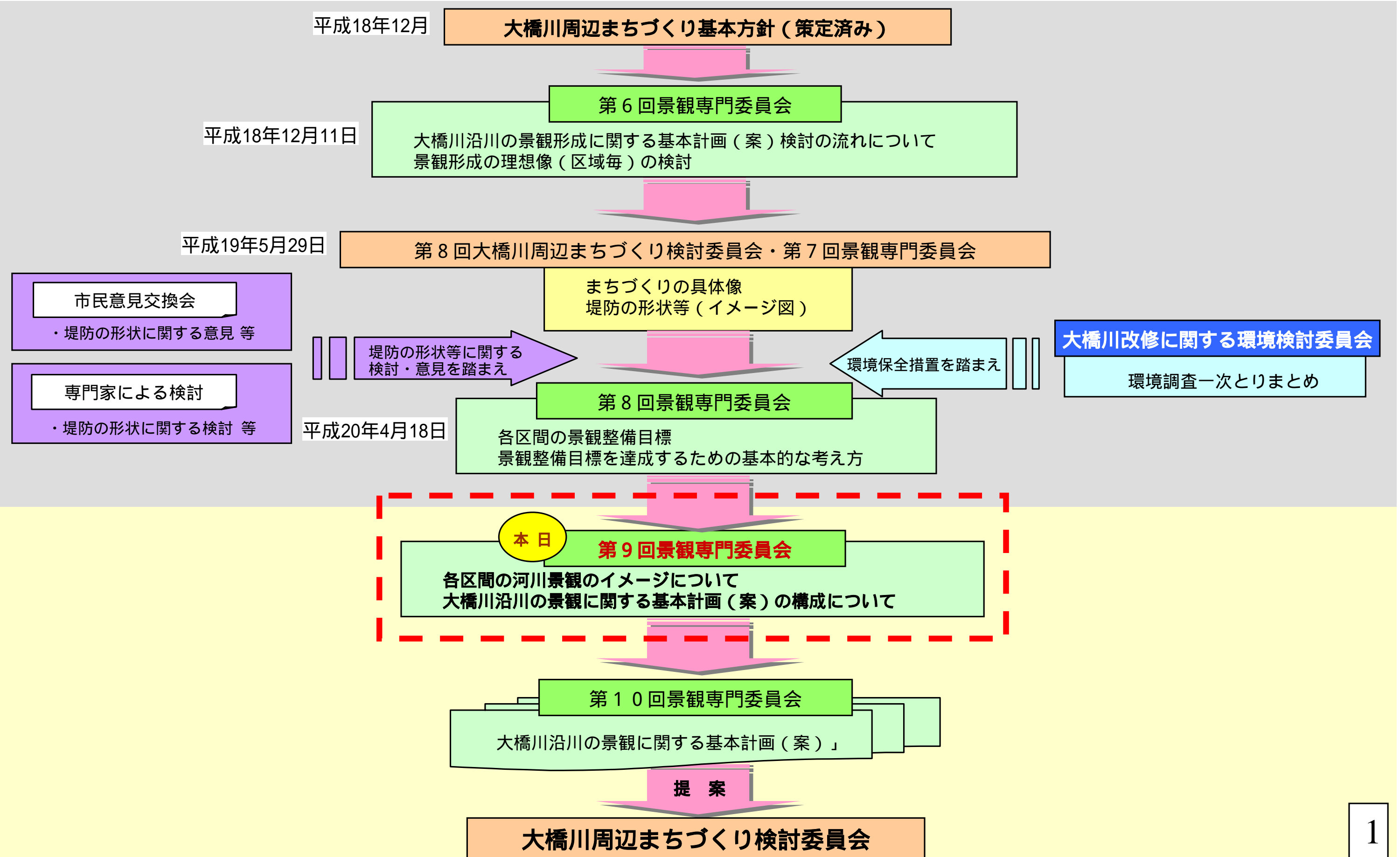
目次

- 1. 大橋川沿川の景観に関する基本計画(案)策定の流れ 1
- 2. イメージパースの考え方及び視点場の設定 2
- 3. 各区間のイメージパース 4
- 4. 両岸全体のイメージ 12



大橋川沿川の景観に関する基本計画（案）策定の流れ

前回の景観専門委員会において、各区分毎の景観整備目標及びそれを達成するための基本的な考え方について、複数の堤防イメージの横断図を提示し、審議していただいた。今回の委員会においては、前回の審議を踏まえ絞り込んだ堤防のイメージパースに基づき、各区分の河川景観のイメージについて審議いただく。また、「大橋川沿川の景観に関する基本計画（案）」の構成について議論いただく。

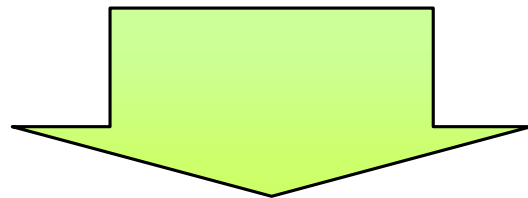


イメージパースの考え方及び視点場の設定

<イメージパースの考え方>

前回の景観専門委員会での審議内容を踏まえ、区間を代表する堤防イメージを抽出し、第9回大橋川周辺まちづくり検討委員会において提示された整備パターンと大橋川改修事業環境調査一次とりまとめで提案された環境の保全措置に配慮しながらイメージパースを作成した。

上流部南岸の整備パターンは、背後地整備案を採用していますが、確定したわけではありません。



<視点場の設定>

イメージパース作成にあたり、堤防形状と縦断方向の施設配置などを意識できるようにするため、河岸より少し離れた視点から、下流を臨むような視点場を設定した。視点場の高さは、以下を想定している。

- ・上流部 ...現在の松江大橋及び新大橋の上からの目線
- ・中下流部...船の上からの目線

<注意事項>

パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。

背後のまち並みは現状を基に描いています。治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。

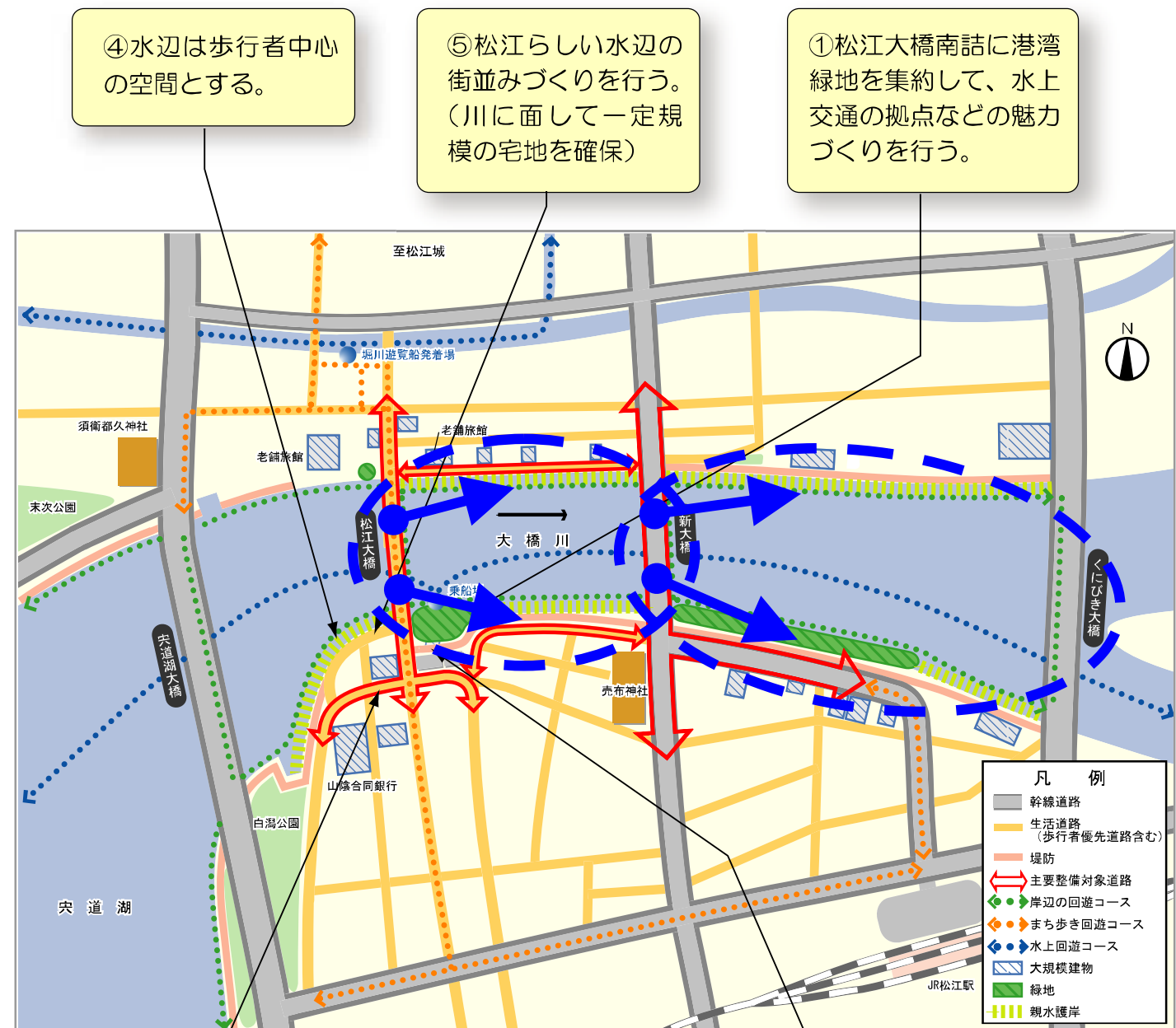
兩岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

第9回大橋川周辺まちづくり検討委員会
資料1 - P2

整備パターン<上流部>

上流<背後地整備案>の考え方

河川改修にあわせ港湾緑地や川岸の道路を配置換えして新たなまちづくりをめざす案



④水辺は歩行者中心の空間とする。

⑤松江らしい水辺の街並みづくりを行う。
(川に面して一定規模の宅地を確保)

①松江大橋南詰に港湾緑地を集約して、水上交通の拠点などの魅力づくりを行う。

②2車線道路を背後に付替える。
(未接道宅地の解消)

③水辺の緑地と一体となった民間開発による賑わいの拠点づくり。

イメージパースの考え方及び視点場の設定

第9回大橋川周辺まちづくり検討委員会
資料1 - P3

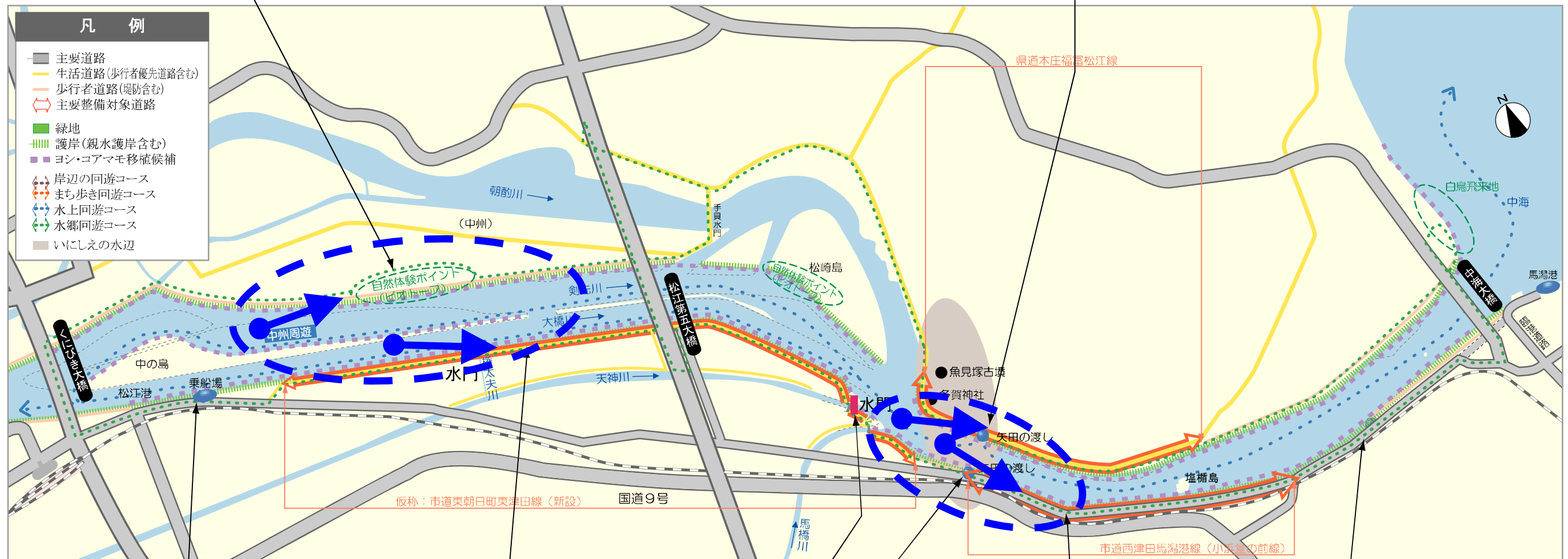
中下流の考え方

整備パターン<中下流部>

河川改修にあわせ港湾施設や川岸の道路を整備して
生活道路以外にも、自転車・歩行者道、釣り場など水辺の利活用をめざす案

- ・中州は水郷を保全
- ・剣先川でボート・カヌーで遊べる工夫
- ・自然環境を活かした水辺づくり
- ・管理用通路は自転車・歩行者道として兼用

- ・管理用通路は、生活道路として兼用
- ・矢田の渡しの利活用
- ・舟だまりの集積



- ・港湾施設を整備

- ・管理用通路を生活道路として兼用
- ・魚釣り、散策時に配慮した河岸づくり

- ・天神川上下流部に水門を設置

- ・管理用通路を市道の一部として兼用

- ・管理用通路を市道の一部として兼用
- ・矢田の渡しの利活用
- ・舟だまりの集積

- ・管理用通路を自転車・歩行者道として兼用
- ・中海湖岸堤への擦りつけ
- ・魚釣り、散策等に配慮した河岸づくり

各区間のイメージパース 上流部北岸【松江大橋～新大橋間】

上流部北岸の風景

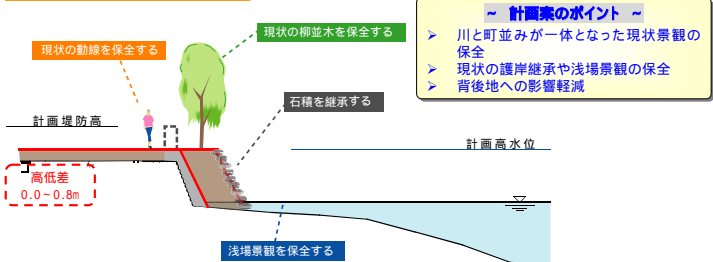


景観整備目標

【計画案 1】 <1:0.5の堤防>

柳並木や背後の町並み、現状の石積み護岸などの風情に配慮しつつ、穏やかな水音を楽しみ、水底を見ることができ景観整備を行う。

計画案 1 - (A+C1+E)



項目	概要
基本的な考え方	現状の柳並木や石積み護岸と背後の町並み、それらと一体となった水際の風景を活かした景観整備を行う。
堤防の基本形状	現状の石積みを継承した断面形状とする。
水際のあり方	現状の水底が見える浅場景観を保全する。
植栽のあり方	現状の柳並木を保全する。
利用のあり方	現状の眺望景観を保全する。

前回の景観専門委員会での意見

現状を変えたくないという市民意識が強い

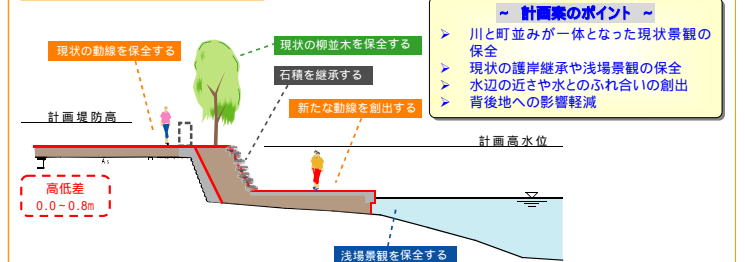
➡ 計画案 1 <1:0.5の堤防>

現在の浅場の保全が良い

➡ 計画案 1 -

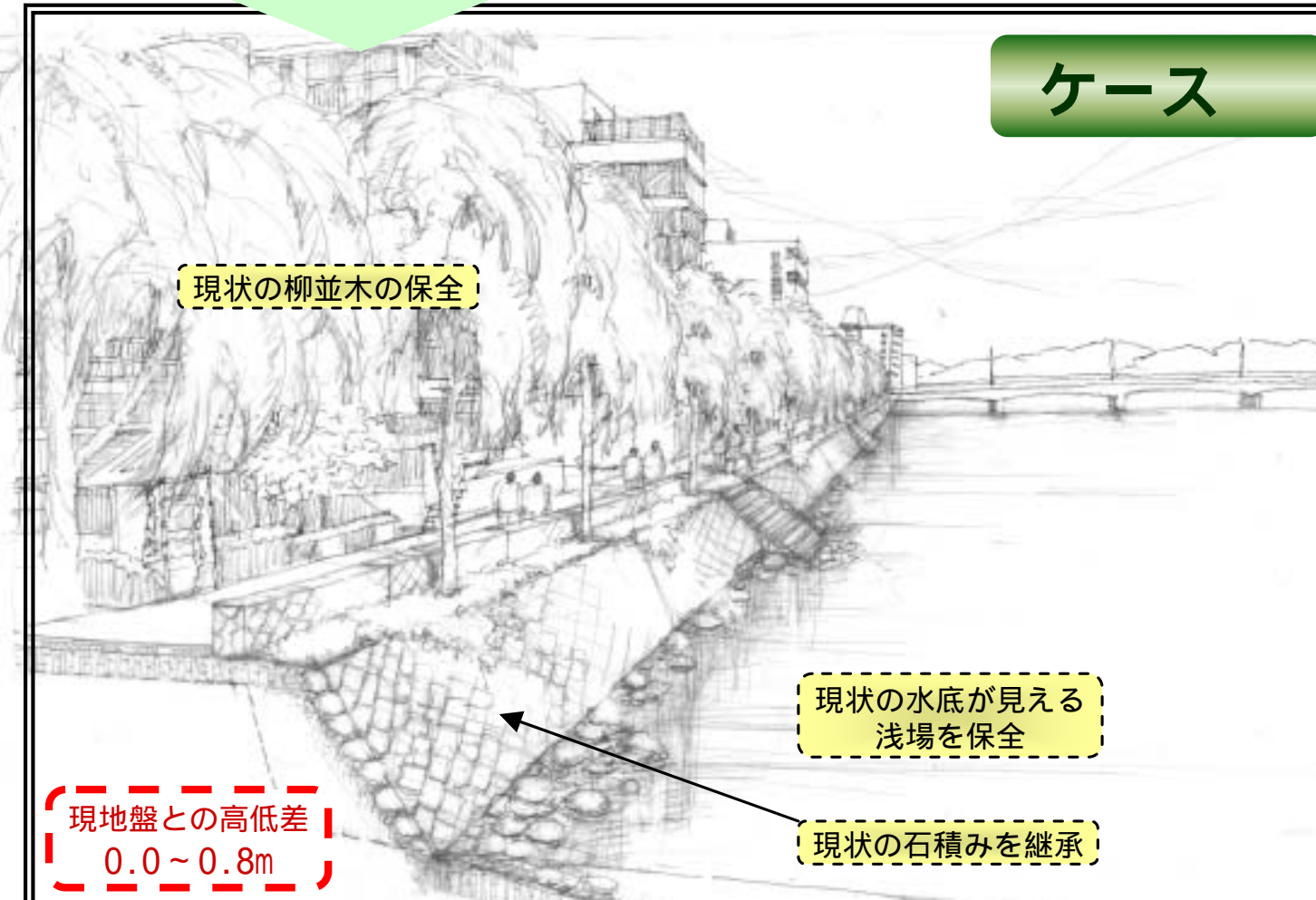
➡ 計画案 1 -

計画案 1 - (B+C1+E)

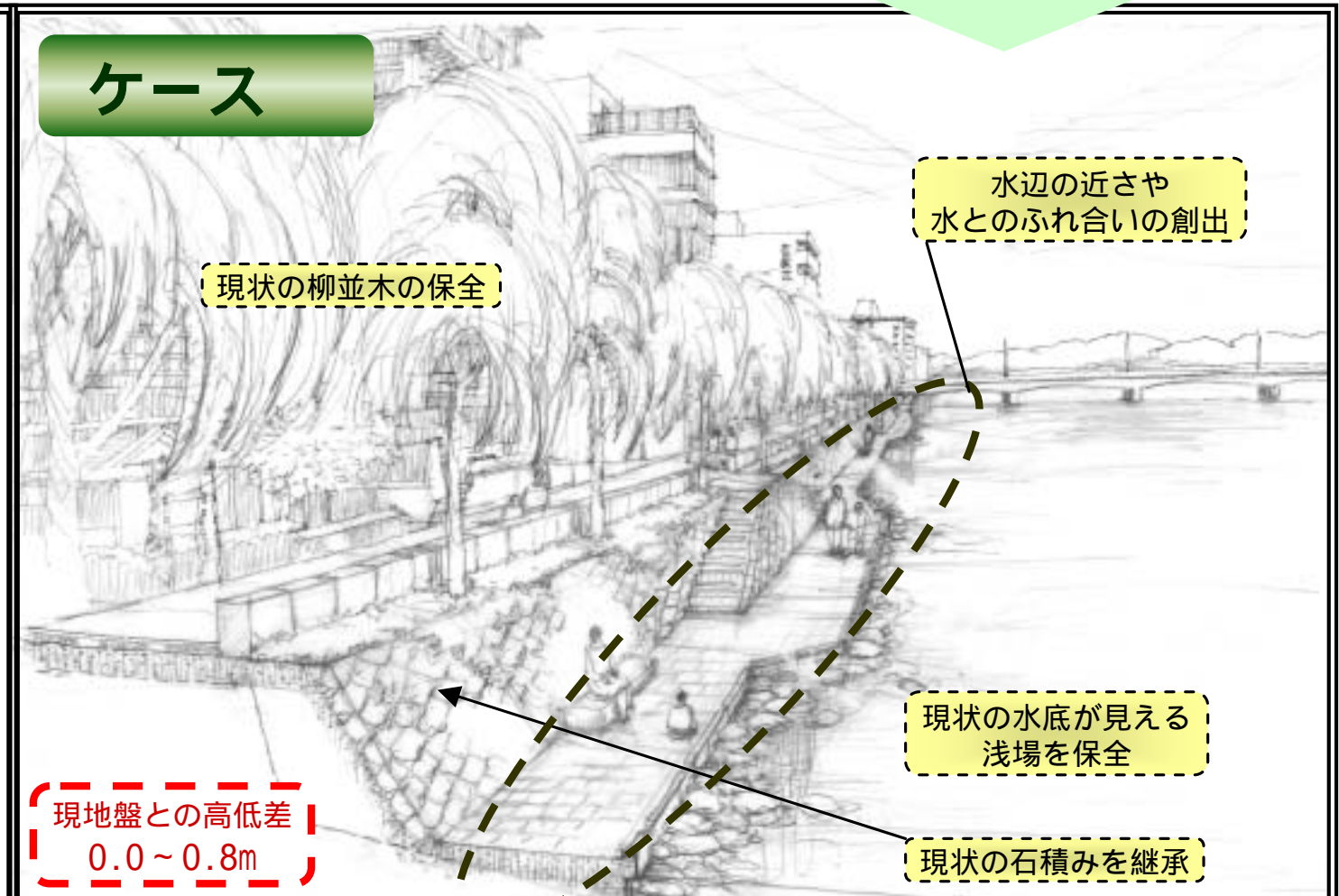


項目	概要
基本的な考え方	現状の柳並木や石積み護岸と背後の町並み、それらと一体となった水際の風景を活かすとともに、水とのふれ合いや憩いを創出する景観整備を行う。
堤防の基本形状	現状の石積みを継承しつつ、水際に新たな動線を創出した断面形状とする。
水際のあり方	現状の水底が見える浅場景観を保全する。
植栽のあり方	現状の柳並木を保全する。
利用のあり方	現状の眺望景観を保全するとともに、水際に動線や広いオープンスペースを設けることで新たな眺望景観や憩いの場を創出する。

ケース



ケース



各区間のイメージパース 上流部南岸【松江大橋～新大橋間】



景観整備目標

【計画案 1】<1:0.5の堤防>
人と水、人とまちとのかかわりが深い現状の風情を活かしつつ、国際観光都市松江の魅力をさらに引き立たせ、活気あふれる景観整備を行う。

【計画案 2】<1:2.0の堤防>
人と水のかかわりや緑豊かな現状の風情を活かしつつ、これまでにない緑豊かな自然空間を提供する景観整備を行う。

計画案 1 - (A+C2+E)

計画堤防高
計画水位
現状の水際景観を保全する
石積みを継承する
現状の樹木を保全する
現状の動線を保全する
高低差 0.0~1.4m

～計画案のポイント～

- 水辺との近さや眺望を活かした景観の保全
- 広いオープンスペースによる賑わいの確保
- 背後地への影響軽減

項目	概要
基本的な考え方	現状の石積み護岸のイメージや、人と公園・緑との関わりを活かしながら、集いの空間としての魅力を高める景観整備を行う。
堤防の基本形状	現状の石積みを継承しつつ、水際に動線や広いオープンスペースを確保した断面形状とする。
水際のあり方	現状の水際景観を保全する。
植栽のあり方	現状の並木等の景観を保全する。
利用のあり方	現状の眺望景観を保全する。

前回の景観専門委員会での意見

北岸との調和するようなデザインが良い
堤防形式は両岸統一したほうが良い
公園のような拠点スペースを組み込む

整備パターンの配慮事項

港湾緑地を集約し、水上交通の拠点などの魅力づくり

計画案 2 - (A+D1+E)

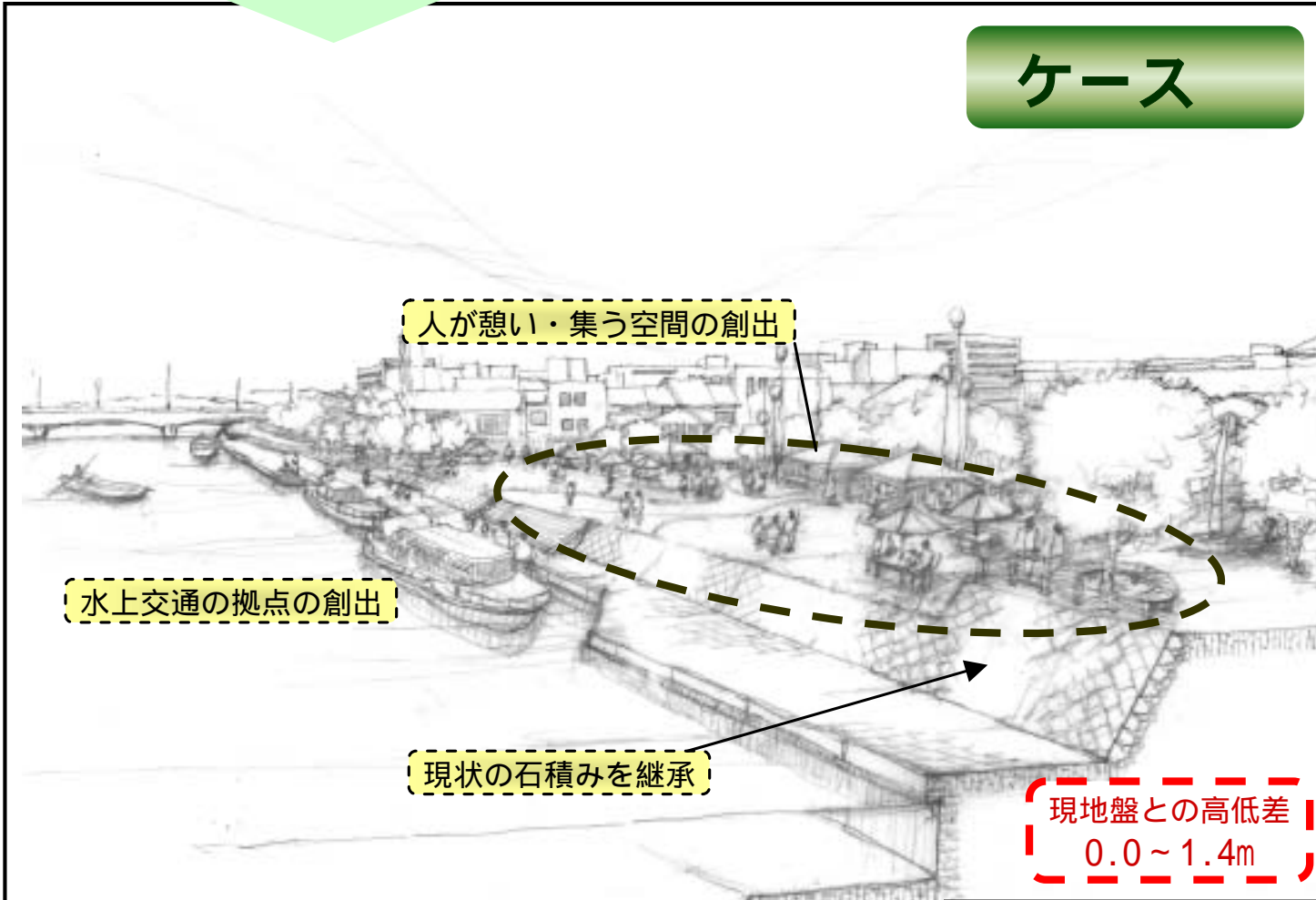
計画堤防高
計画水位
現状の水際景観を保全する
現状の樹木を保全する
現状の動線を保全する
高低差 0.0~1.4m

～計画案のポイント～

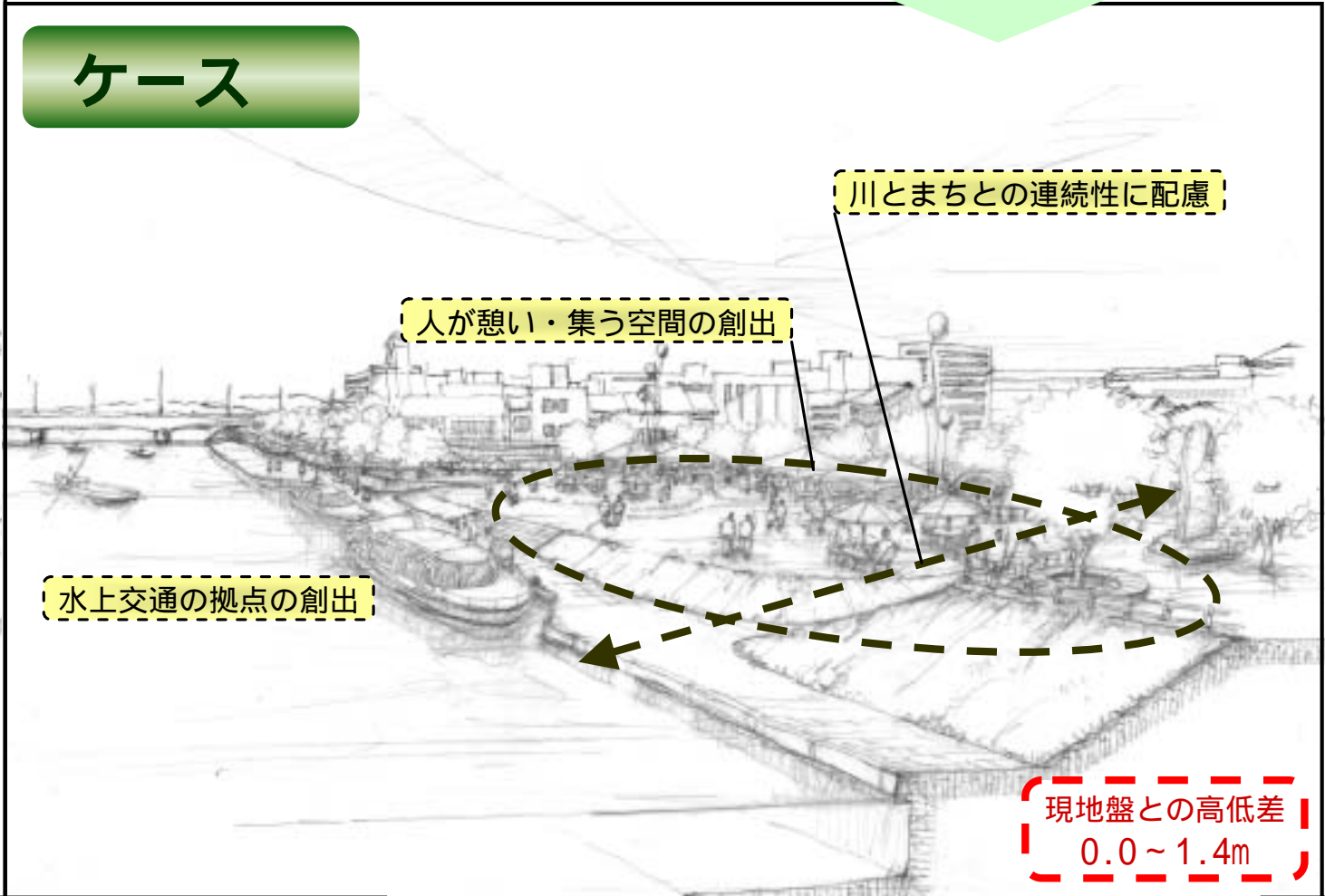
- 水辺との近さや眺望を活かした景観の保全
- 背後地への影響軽減

項目	概要
基本的な考え方	背後の町並みから水面までが連続する風景を創出するとともに、水とのふれ合いを感じる景観整備を行う。
堤防の基本形状	水際に動線を確保しつつ、川(水面)と町との連続性に配慮した断面形状とする。
水際のあり方	現状の水際景観を保全する。
植栽のあり方	現状の並木等の景観を保全する。
利用のあり方	現状の眺望景観を保全する。

ケース



ケース



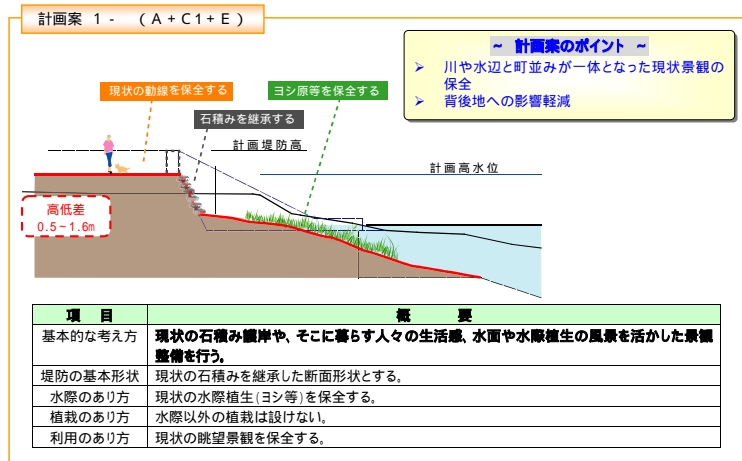
パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。背後のまち並みは現状を基に描いています。治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。

各区間のイメージパース 上流部北岸【新大橋～くにびき大橋間】



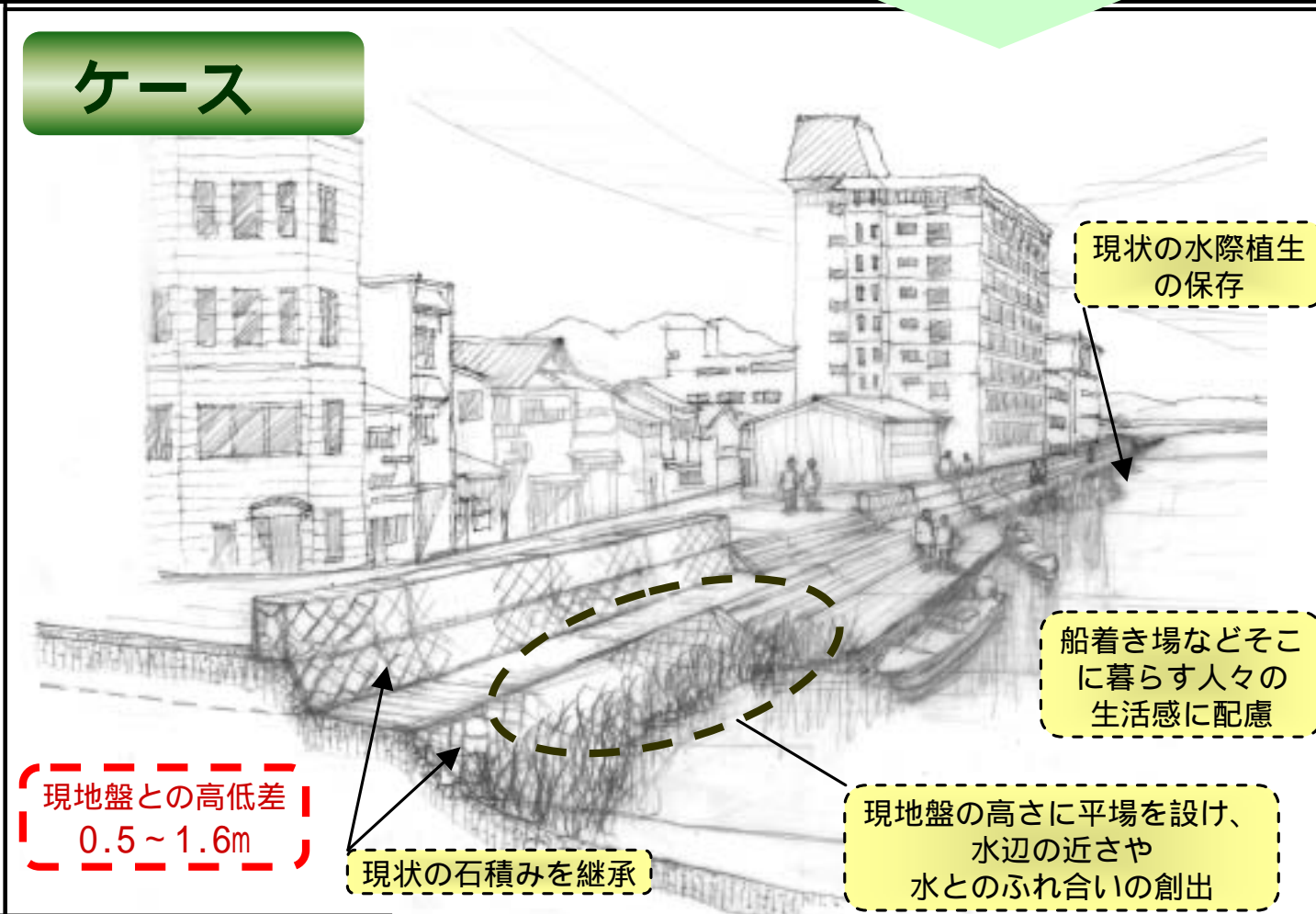
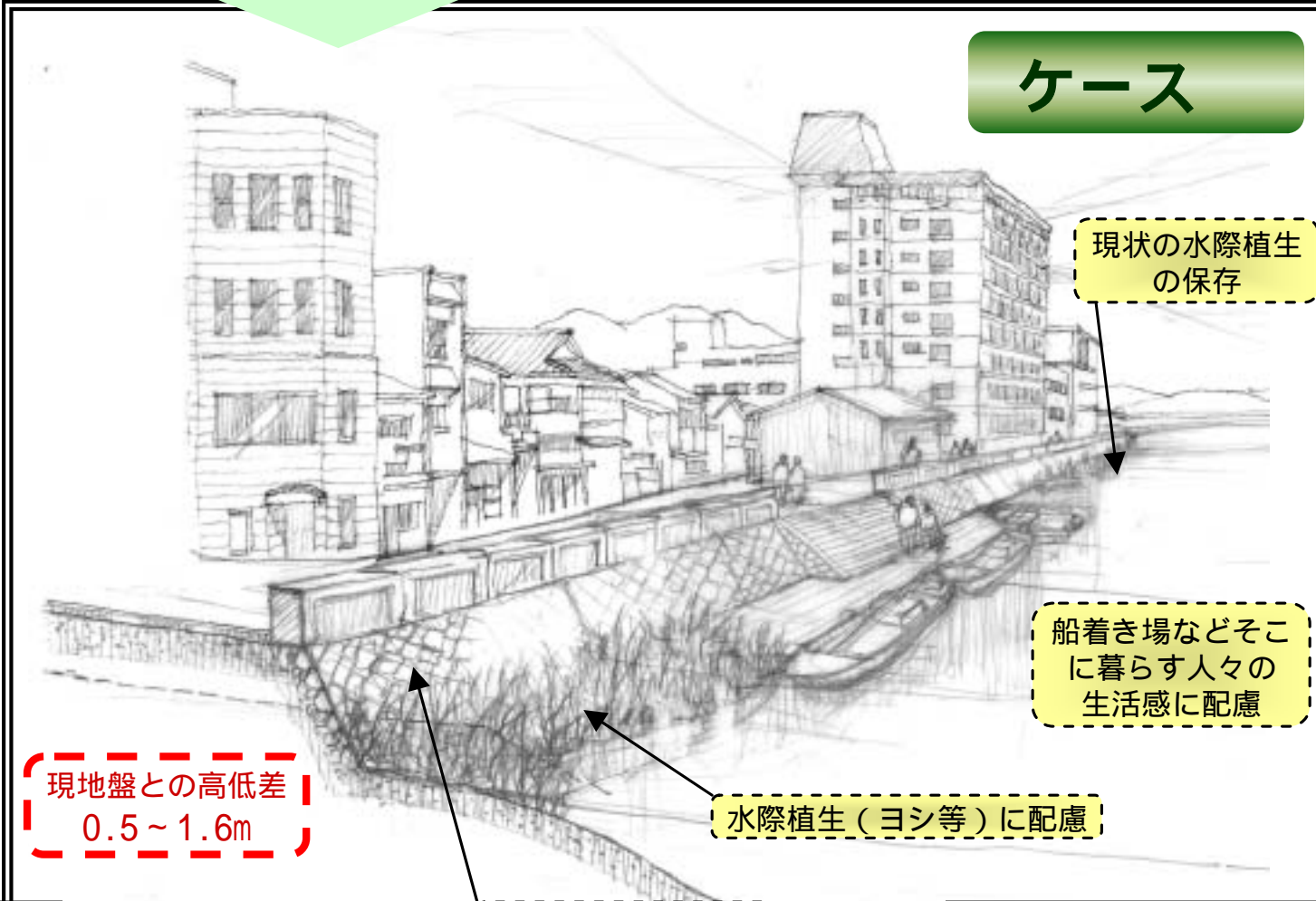
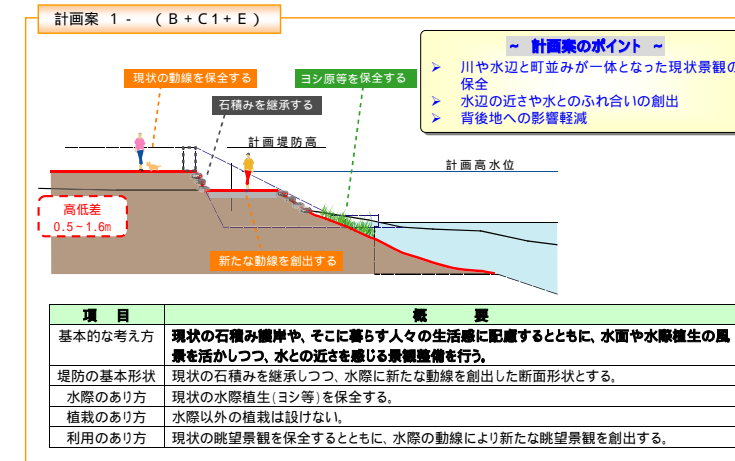
景観整備目標

【計画案 1】 <1:0.5の堤防>
背後の町並みや現状の石積み護岸、生活の佇まいなどの風情に配慮しつつ、現状の水面や植生を見ることができる景観整備を行う。



前回の景観専門委員会での意見

堤防を緩くし水際の水深を深くした場所を連続させる必要はない
ヨシ原の保全を基本とする
→ 計画案 1 <1:0.5の堤防>
連続した景観の中に船着き場など目的に応じた施設を考慮する



各区間のイメージパース 上流部南岸【新大橋～くにびき大橋間】



上流部南岸の風景



景観整備目標

【計画案 1、2】<1:0.5と1:2.0の堤防>
 人と水との近さや、そこから見られる町並みと背後の自然風景を楽しむ
 視点場の保全とともに、人に静けさと憩いを提供する景観整備を行う。

計画案 1 - (A+C3+D)

高低差 0.1~1.3m

～ 計画案のポイント ～

- 水辺から町までの一体感や利用に配慮した新たな景観の創出
- 緩斜面を使った様々な利用
- 背後地への影響軽減

項目	概要
基本的な考え方	背後の町並みから水面までが連続し緑豊かな風景や集いの空間の創出、水とのふれ合いを感じる景観整備を行う。
堤防の基本形状	緩い斜面による多目的な利用や水際に動線を確保した断面形状とする。
水際のあり方	現状の水際景観を保全する。
植栽のあり方	現状の並木等の景観を保全する。
利用のあり方	現状の眺望景観を保全する。

前回の景観専門委員会での意見

北岸と対比する景観として捉え変化する多様な景観も良い
 緑の多い護岸が好ましい

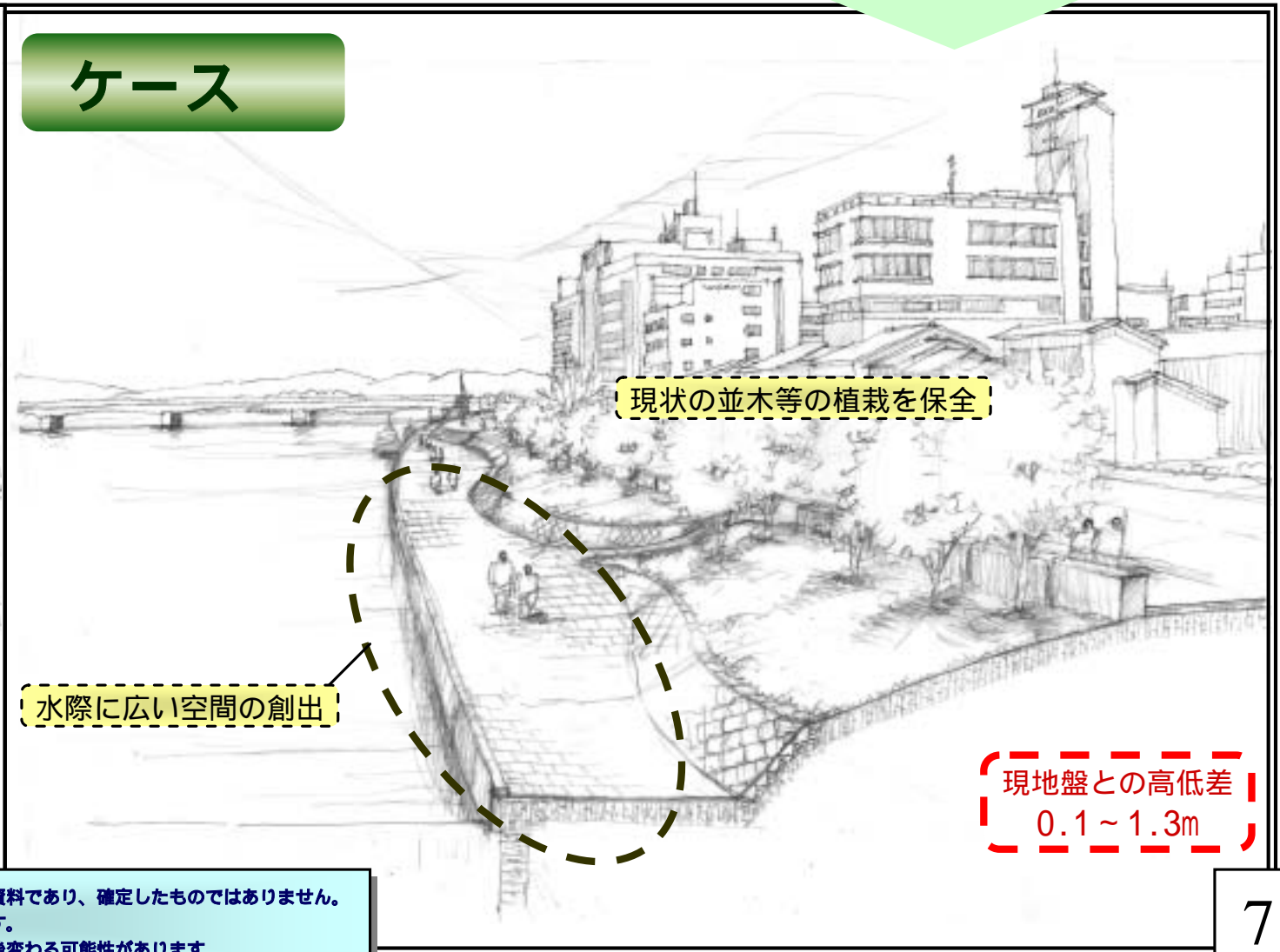
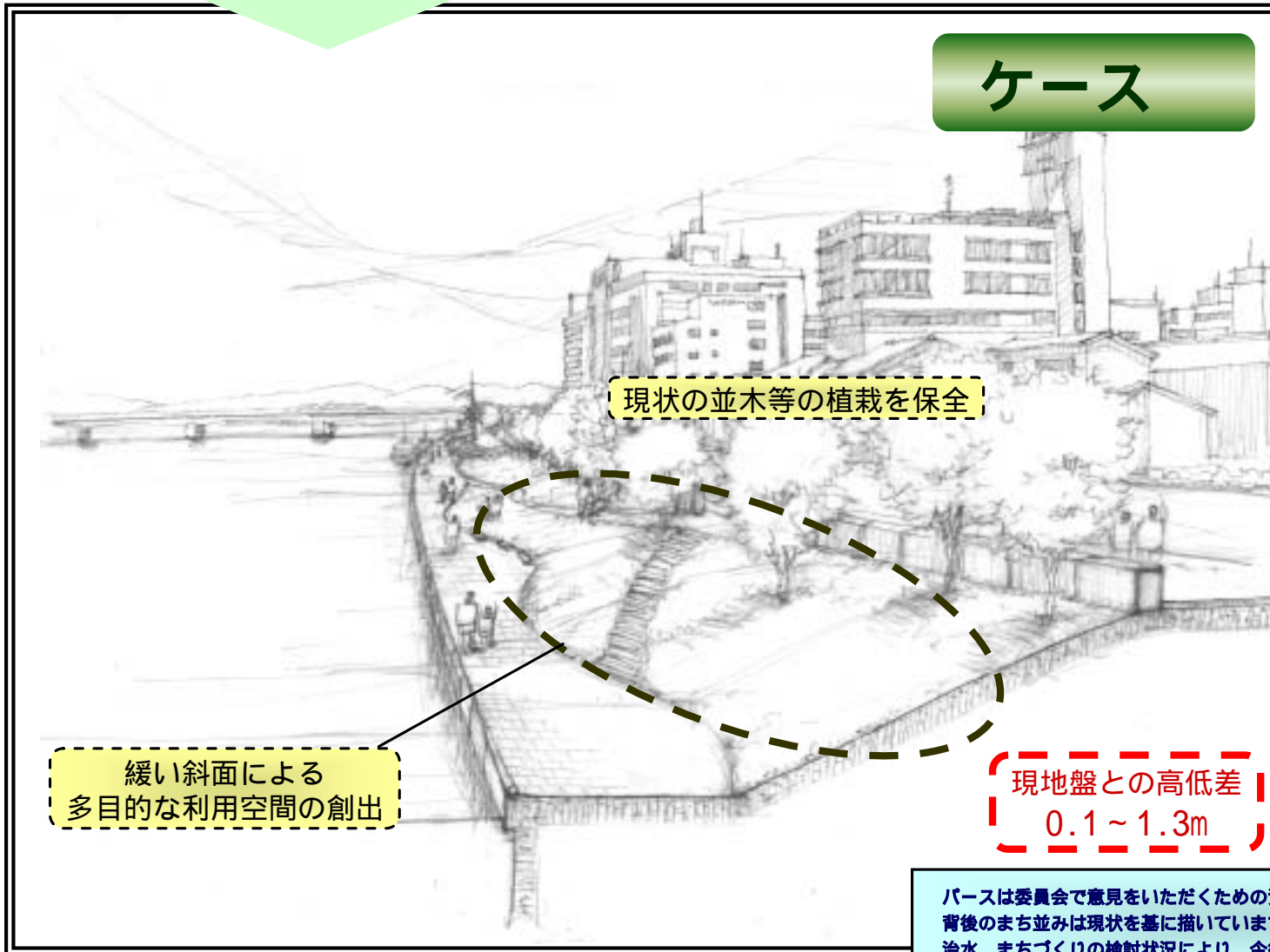
計画案 2 - (A+B1+D)

高低差 0.1~1.3m

～ 計画案のポイント ～

- 石積みや並木等の現状景観の保全
- 広いオープンスペースによる賑わい場の確保
- 背後地への影響軽減

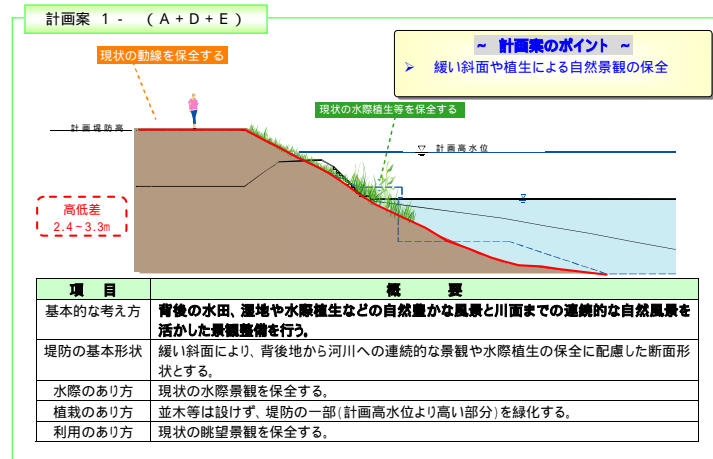
項目	概要
基本的な考え方	現状の石積み護岸のイメージや、人と公園・緑との関わりを活かしながら、集いの空間としての魅力を高め、水とのふれ合いを感じる景観整備を行う。
堤防の基本形状	現状の石積み継承しつつ、水際に動線や広いオープンスペースを確保した断面形状とする。
水際のあり方	現状の水際景観を保全する。
植栽のあり方	現状の並木等の景観を保全する。
利用のあり方	現状の眺望景観を保全する。



パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
 背後のまち並みは現状を基に描いています。
 治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。

各区間のイメージパース 中流部北岸

中流部北岸(剣先川)の風景



景観整備目標

【計画案 1、2】 <1:2.0と1:0.5の堤防>
 背後の広がりのある景観、川や湿地、水際植生などの自然豊かな水郷としての風情を活かした景観整備を行う。

前回の景観専門委員会での意見

現況をあまり変えず保全中心にする場合、護岸は必要ないと思う

➡ 計画案1 <1:2.0の堤防>

護岸の平面的な形状の議論が大切である

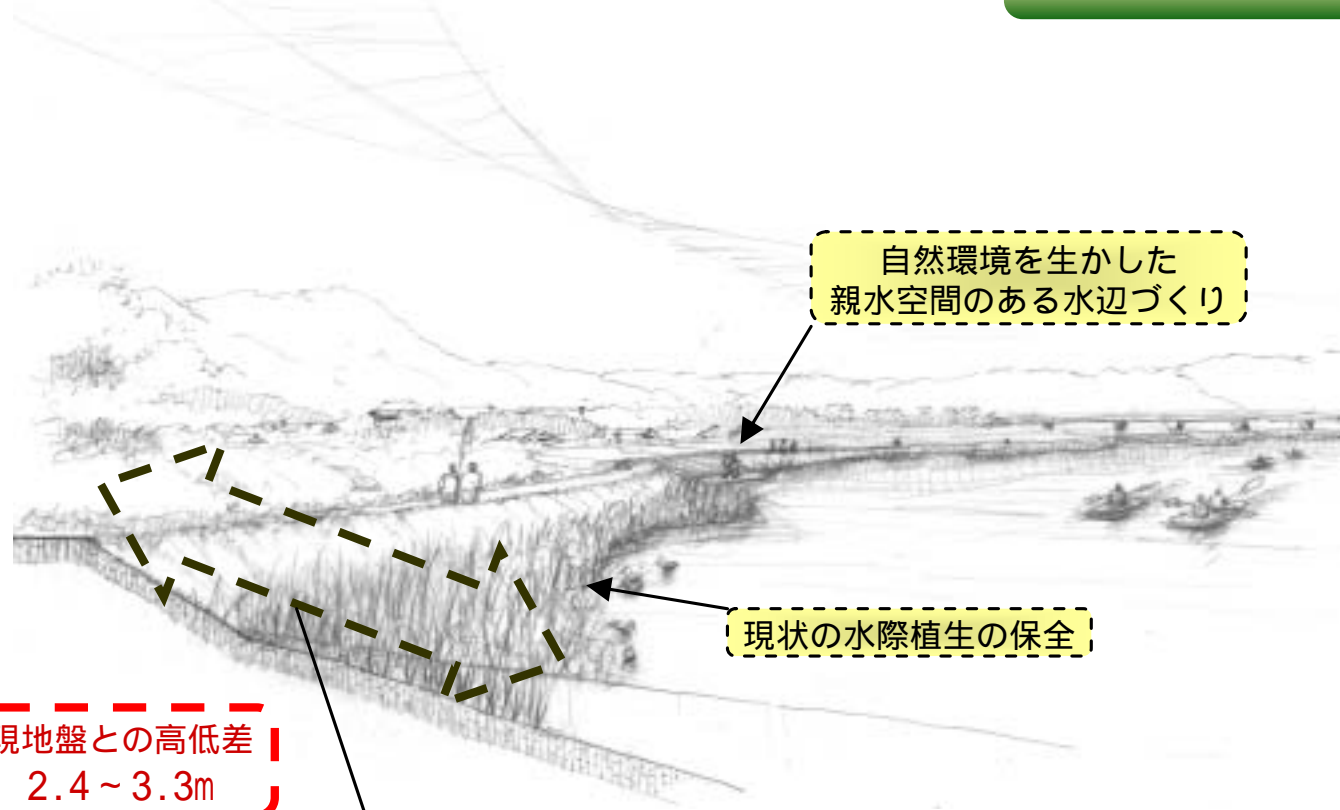
整備パターンの配慮事項

中州は水郷を保全

ボート・カヌーで遊べる工夫

自然環境を生かした水辺づくり

ケース



自然環境を生かした親水空間のある水辺づくり

現状の水際植生の保全

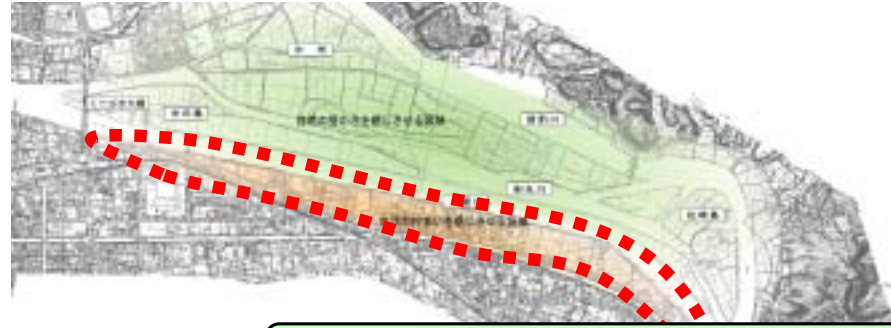
現地盤との高低差 2.4~3.3m

緩い斜面による背後地から川への連続的な自然景観の創出

パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。背後のまち並みは現状を基に描いています。治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。

各区間のイメージパース 中流部南岸

中流部南岸の風景



景観整備目標

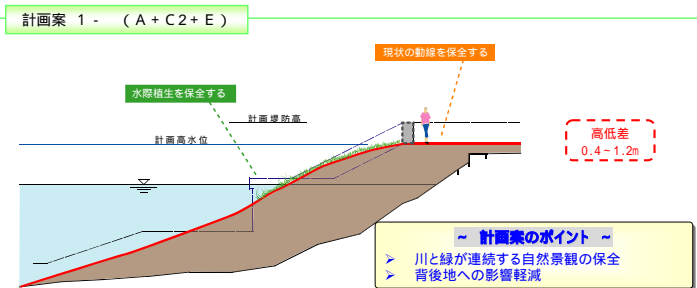
【計画案 1、2】<1:2.0と1:0.5の堤防>
背後に住む人と水とのかかわりや、のびやかで様々な表情を見ることが
できる自然風景、水辺で楽しめるような景観整備を行う。

前回の景観専門委員会での意見

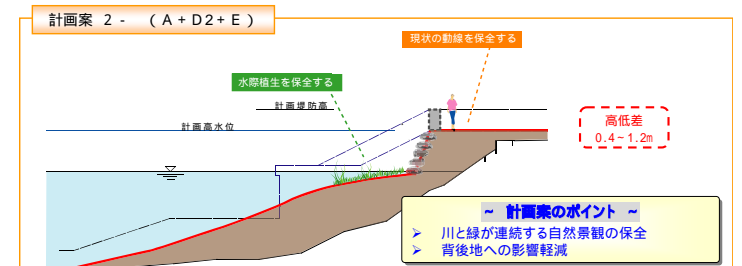
水際付近に構造物を無理につくる必要はなく、自然を生かした
計画の方が無理がなくて良い

➡ 計画案 1 - <1:2.0の堤防>

➡ 計画案 2 - <1:0.5の堤防>



項目	概要
基本的な考え方	対岸側の豊かな自然景観との調和や水際植生等の環境に配慮した景観整備を行う。
堤防の基本形状	緩い勾配の斜面と水面との連続性を確保した断面形状とする。
水際のあり方	現状の水際景観を保全する。
植栽のあり方	植栽等は行わない。
利用のあり方	現状の眺望景観を保全する。

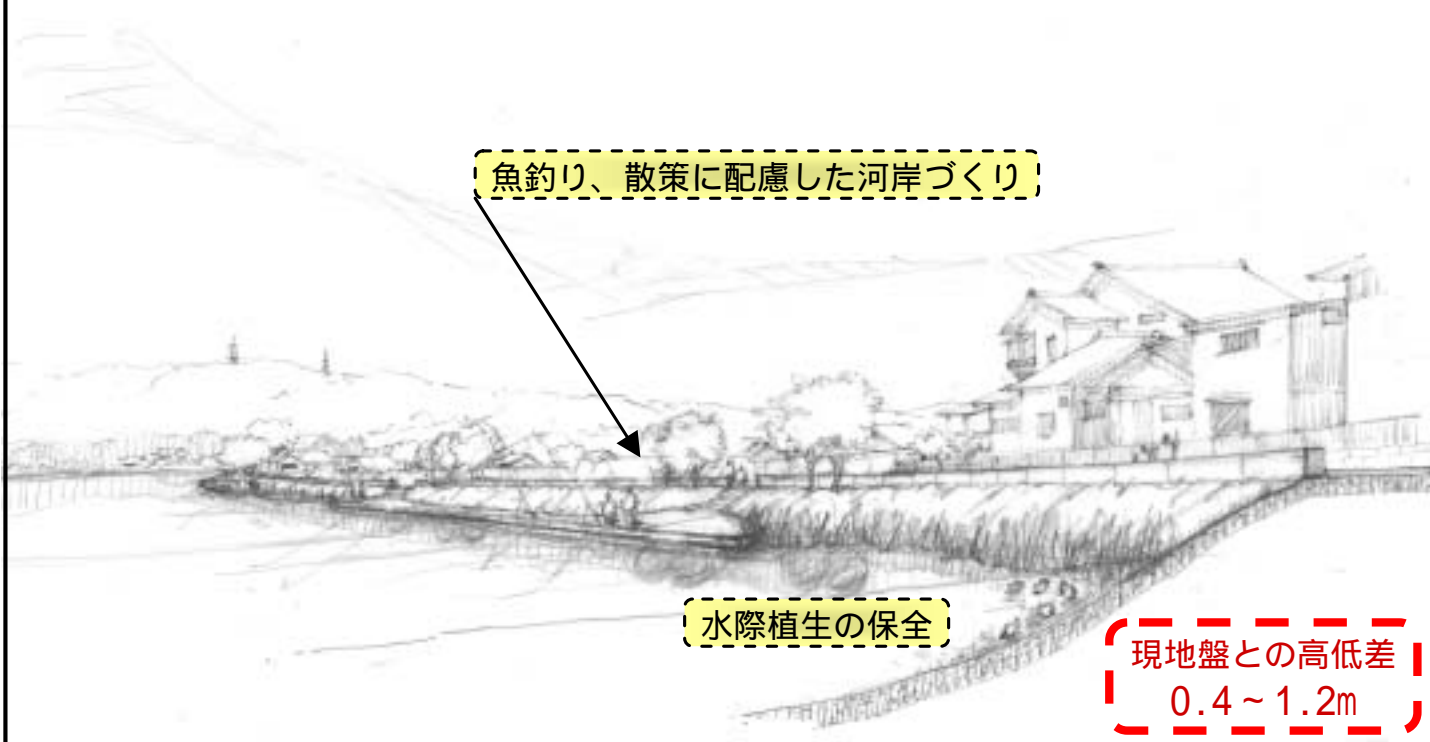


項目	概要
基本的な考え方	水際植生等の水辺環境にも配慮した景観整備を行う。
堤防の基本形状	護岸と緩い斜面による背後からの景観的な連続性や水際植生の保全に配慮した断面形状とする。
水際のあり方	現状の水際景観を保全する。
植栽のあり方	植栽等は行わない。
利用のあり方	現状の眺望景観を保全する。

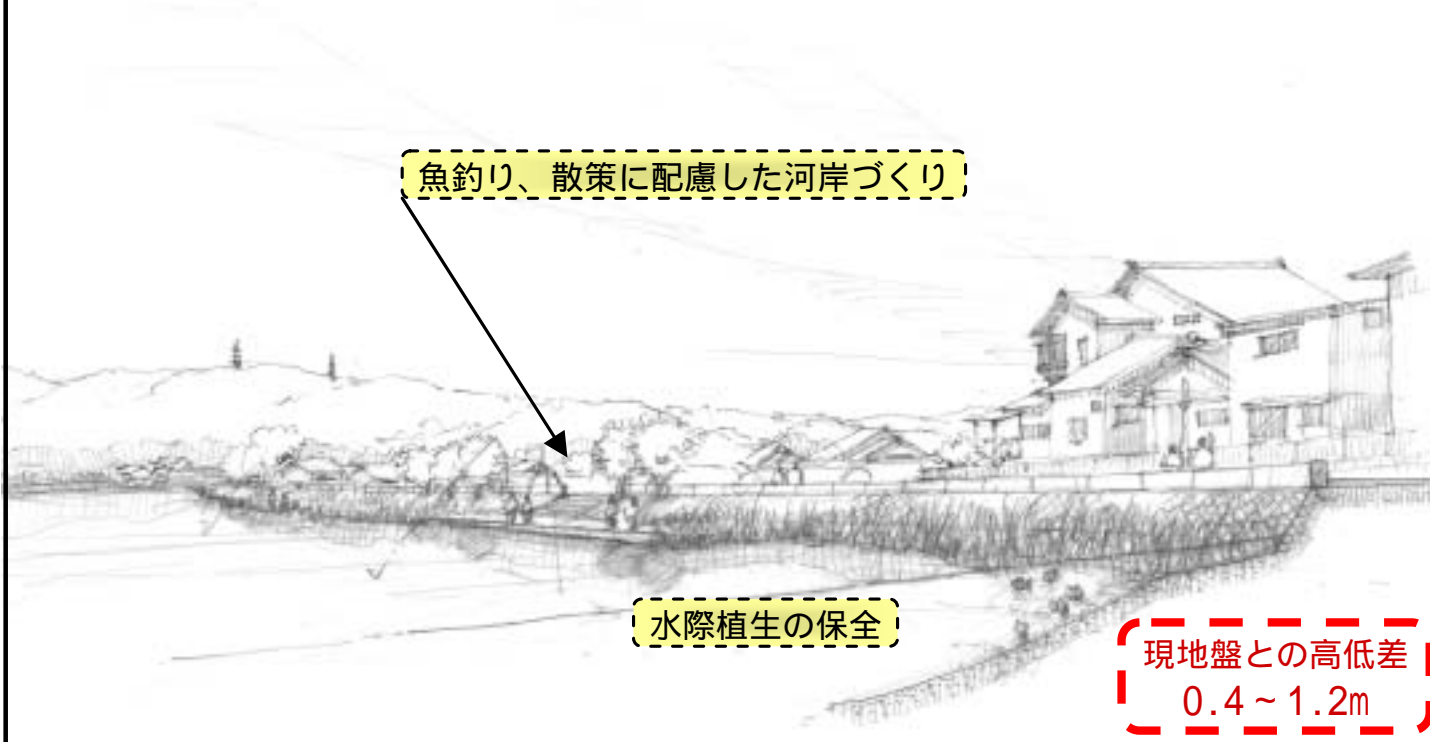
整備パターンの配慮事項

魚釣り、散策に配慮した河岸づくり

ケース



ケース



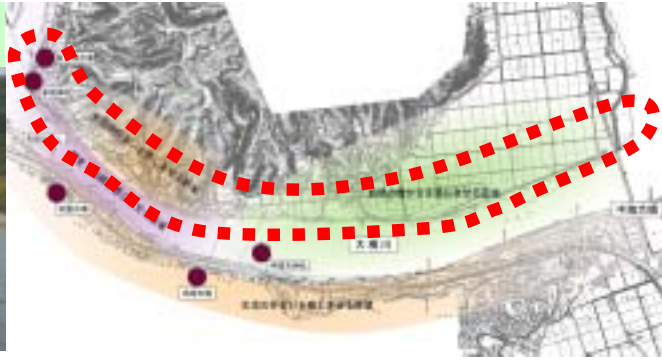
パースは委員会で見解をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。

各区間のイメージパース 下流部北岸

下流部北岸の風景

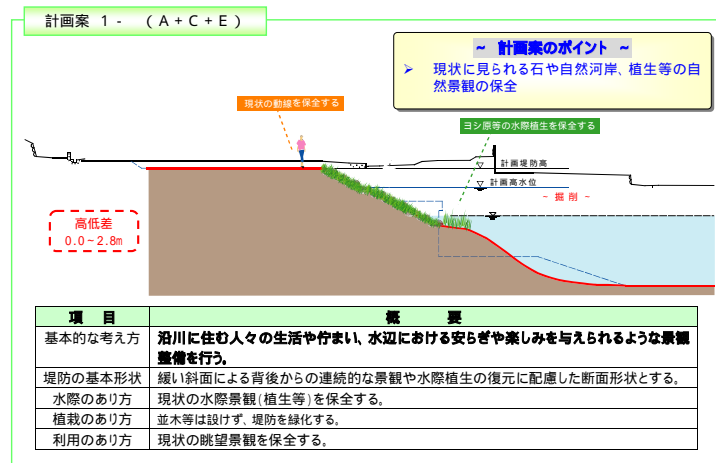


下流部北岸の風景



景観整備目標

【計画案 1、2】<1:2.0と1:0.5の堤防>
古代からの歴史、人々の生活や佇まい、水際から背後までの連続した自然に配慮した景観整備を行う。



前回の景観専門委員会での意見

護岸が必要ないのであれば、緩やかな堤防で草を生えさせる程度でも良い

➡ 計画案 1 - <1:2.0の堤防>

整備パターンの配慮事項

矢田の渡しの利活用

ケース

緩い斜面による背後地から川への連続的な自然景観の創出

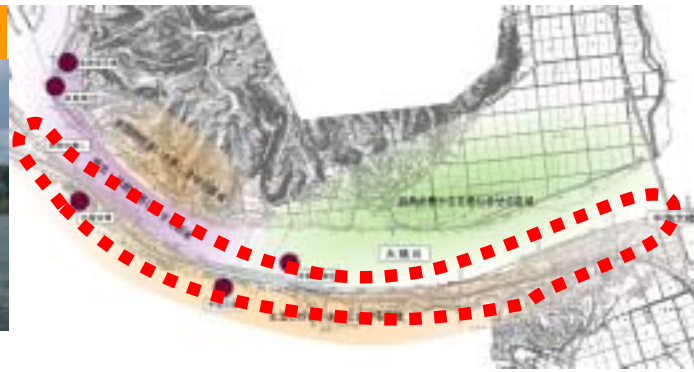
矢田の渡しの利活用

現状の水際植生の保全

現地盤との高低差 0.0~2.8m

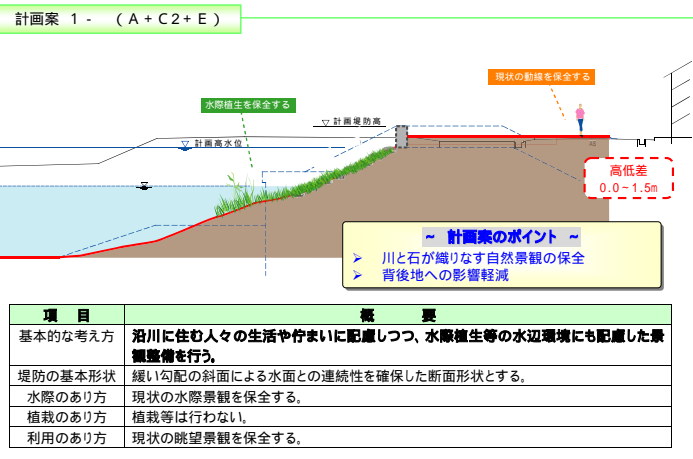
パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。背後のまち並みは現状を基に描いています。治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。

各区間のイメージパース 下流部南岸



景観整備目標

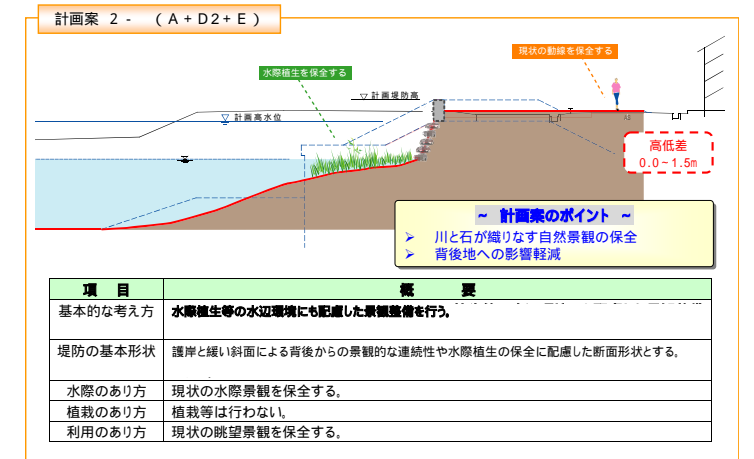
【計画案 1、2】<1:2.0と1:0.5の堤防>
人々の生活や佇まい、水とのかかわりに配慮しつつ、安らぎと楽しみを満喫できる景観整備を行う。



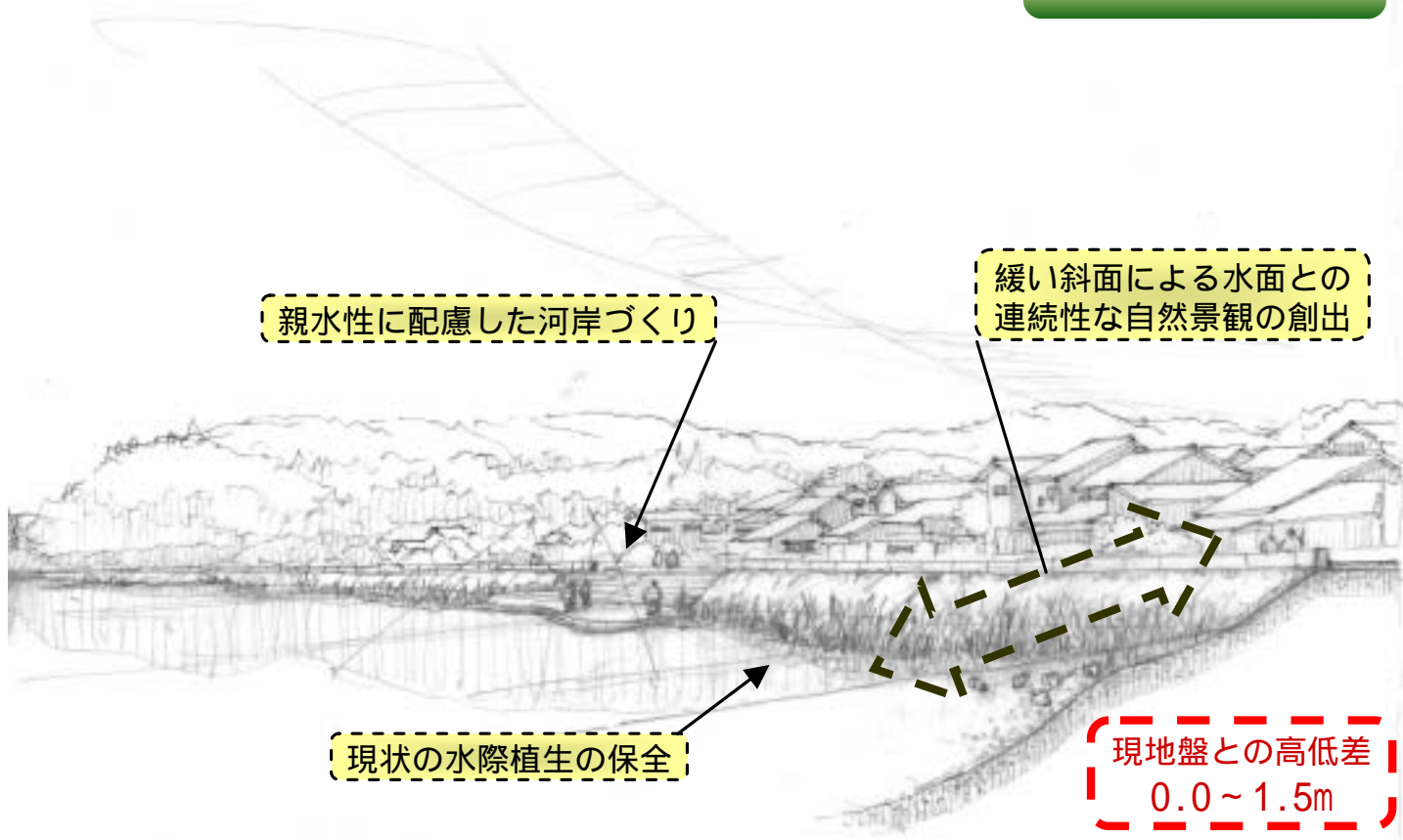
前回の景観専門委員会での意見

自然に近い方が良い
自然風な河川景観をつくと味わい深くなる

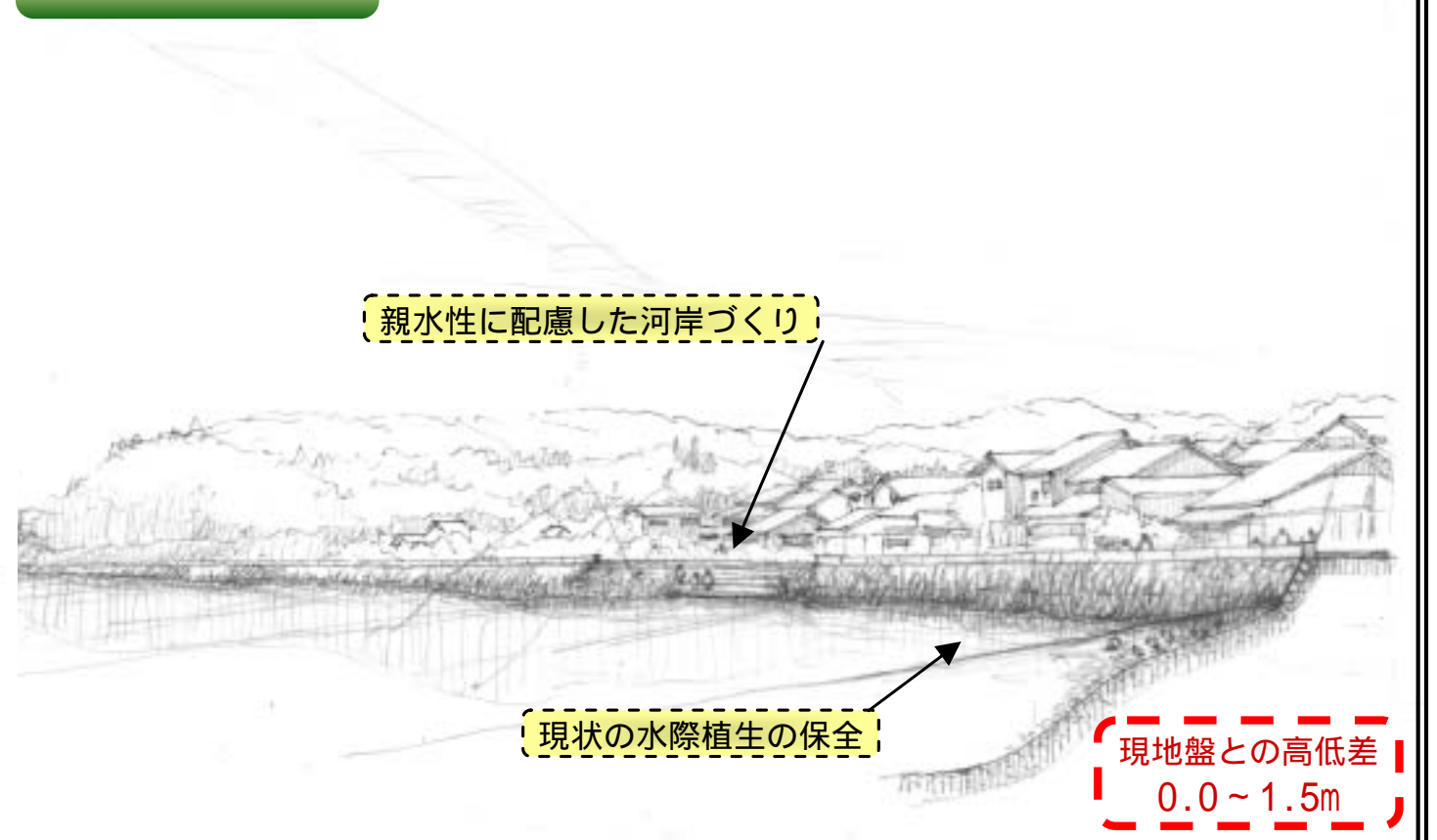
- ➡ 計画案 1 - <1:2.0の堤防>
- ➡ 計画案 2 - <1:0.5の堤防>



ケース



ケース



パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。

両岸全体のイメージ

上流部【松江大橋～新大橋間】

ケース

ケース

パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

ケース

ケース

パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

両岸全体のイメージ

上流部【松江大橋～新大橋間】

ケース



ケース

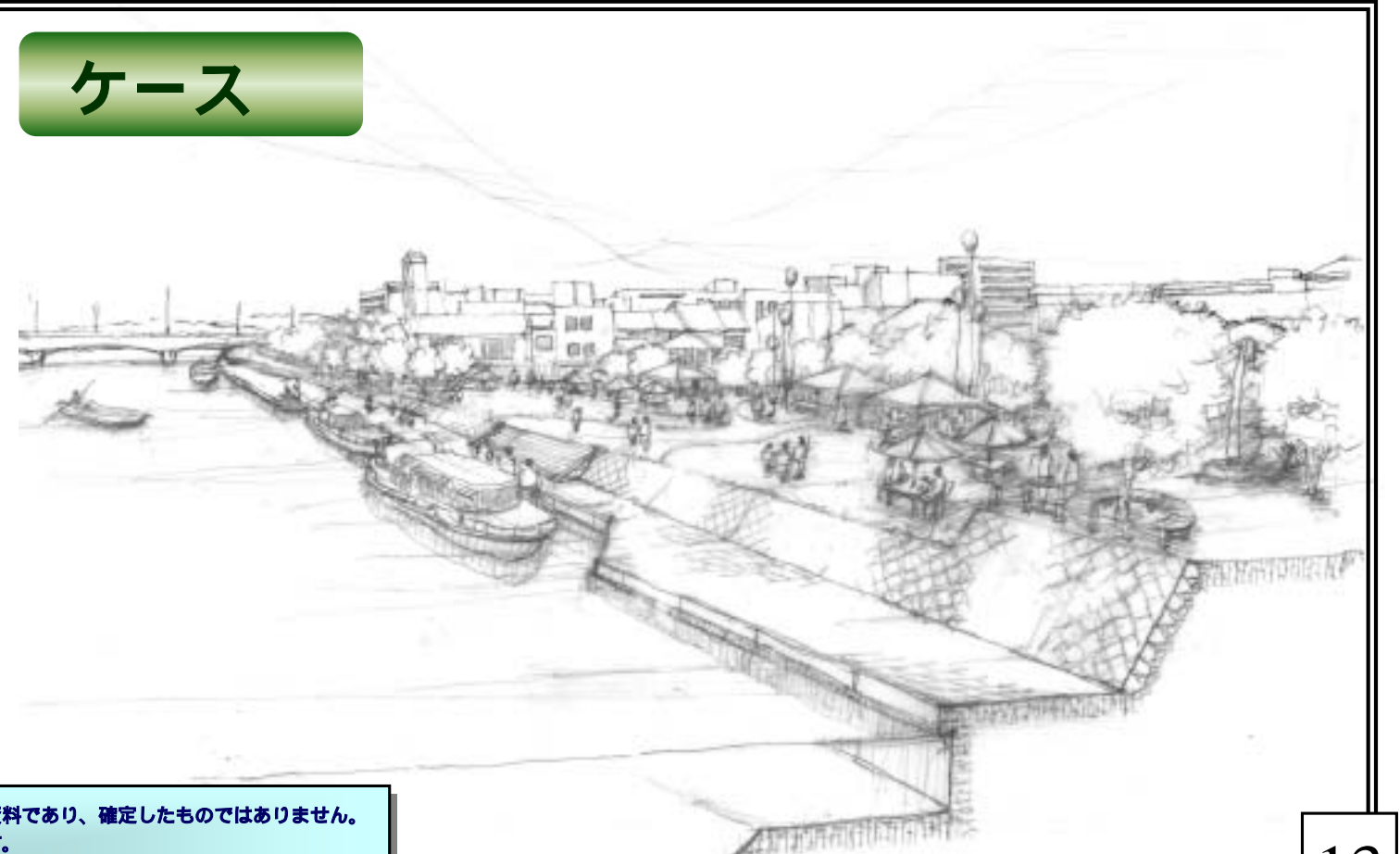


パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

ケース



ケース



パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

両岸全体のイメージ 上流部【新大橋～くにびき大橋間】

ケース

ケース

パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

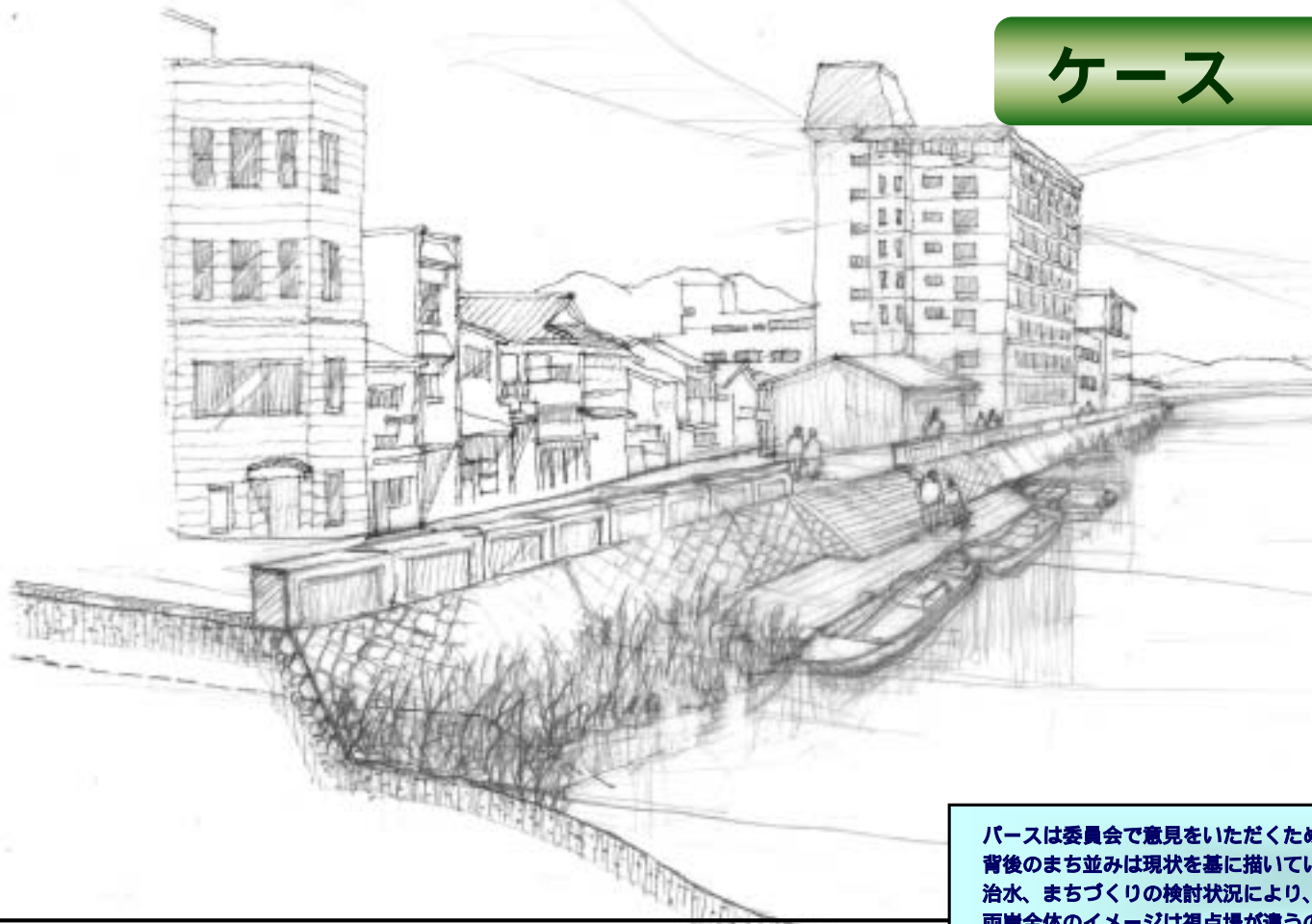
ケース

ケース

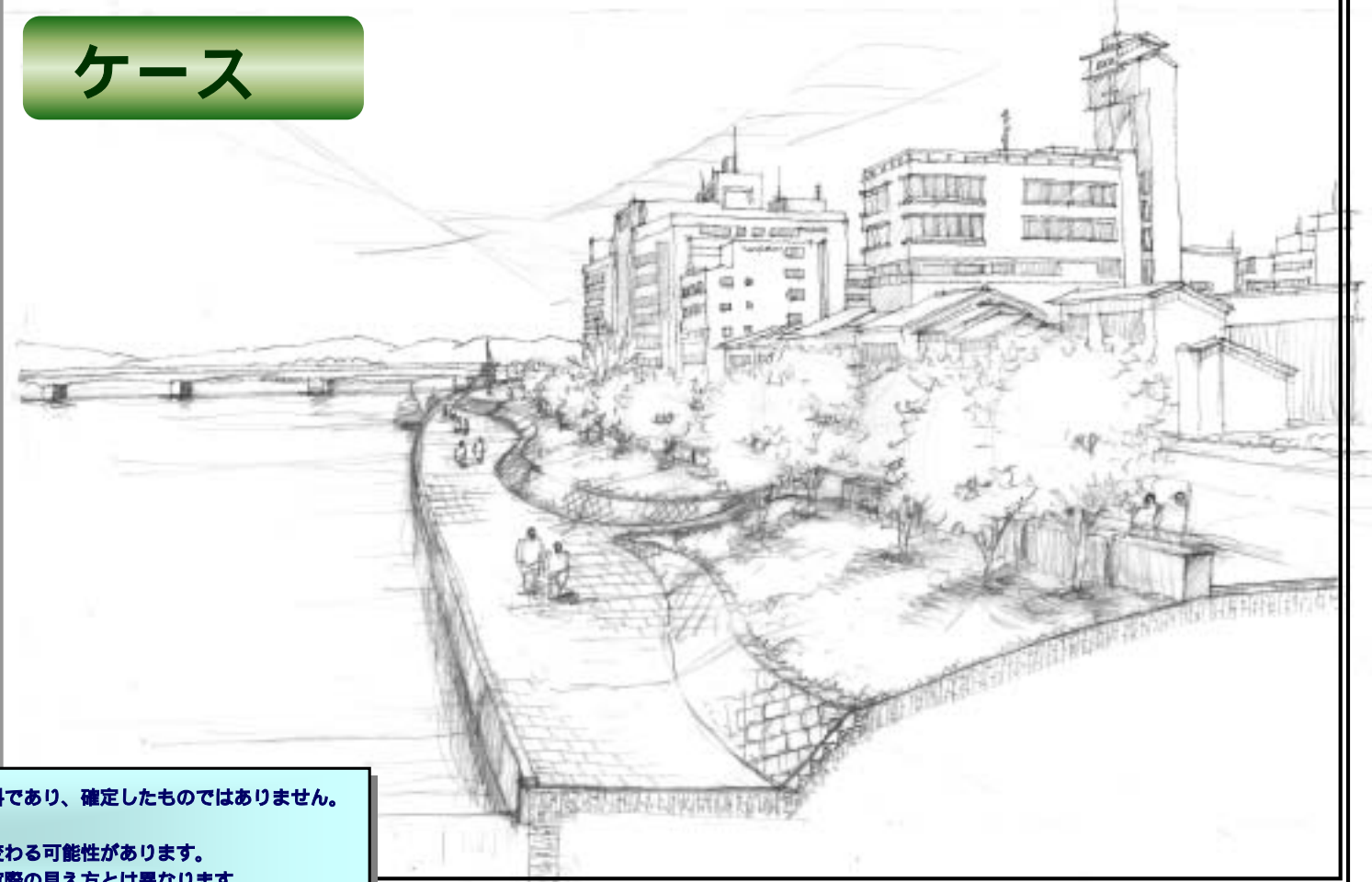
パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

両岸全体のイメージ 上流部【新大橋～くにびき大橋間】

ケース



ケース

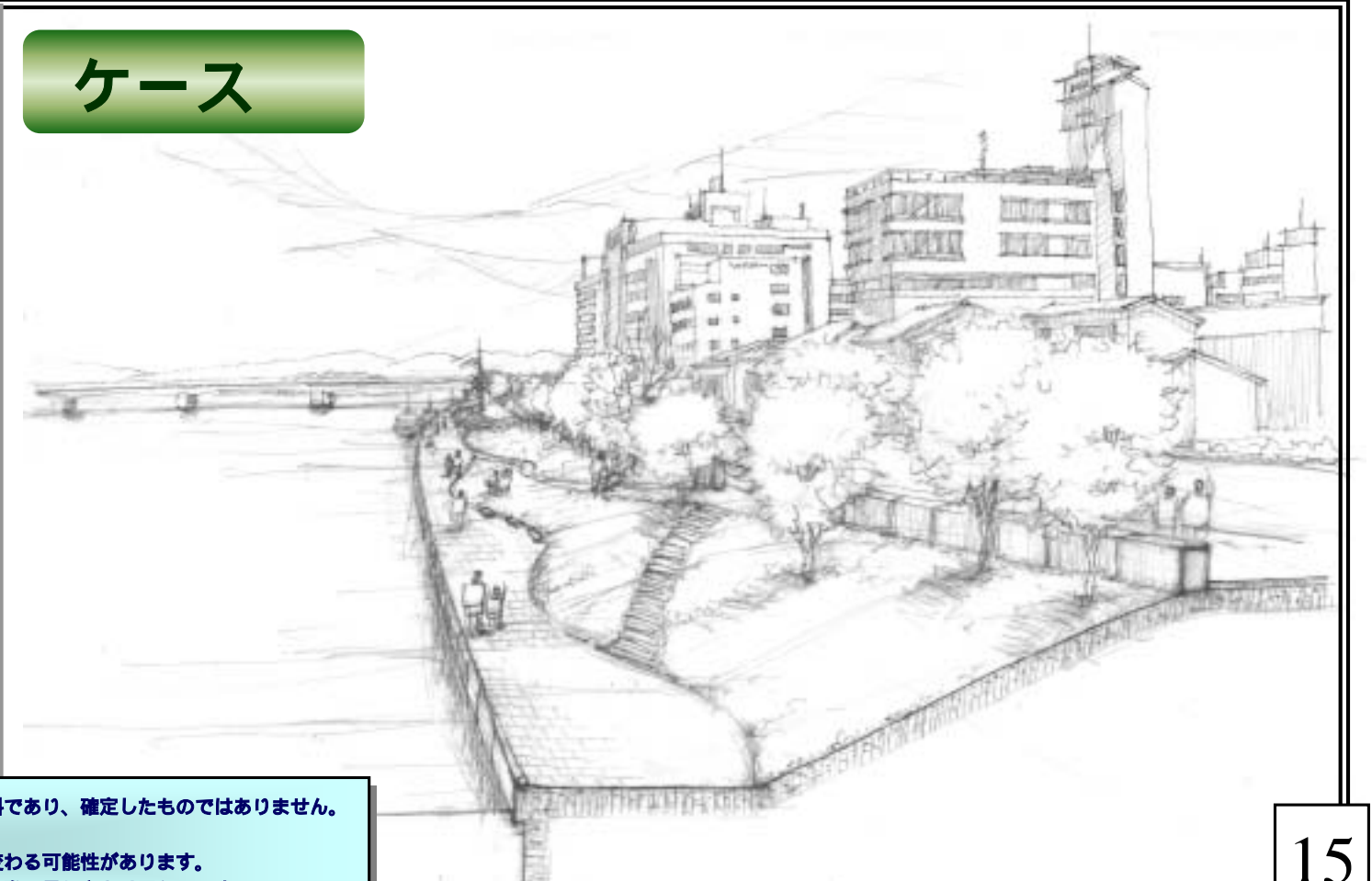


パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

ケース



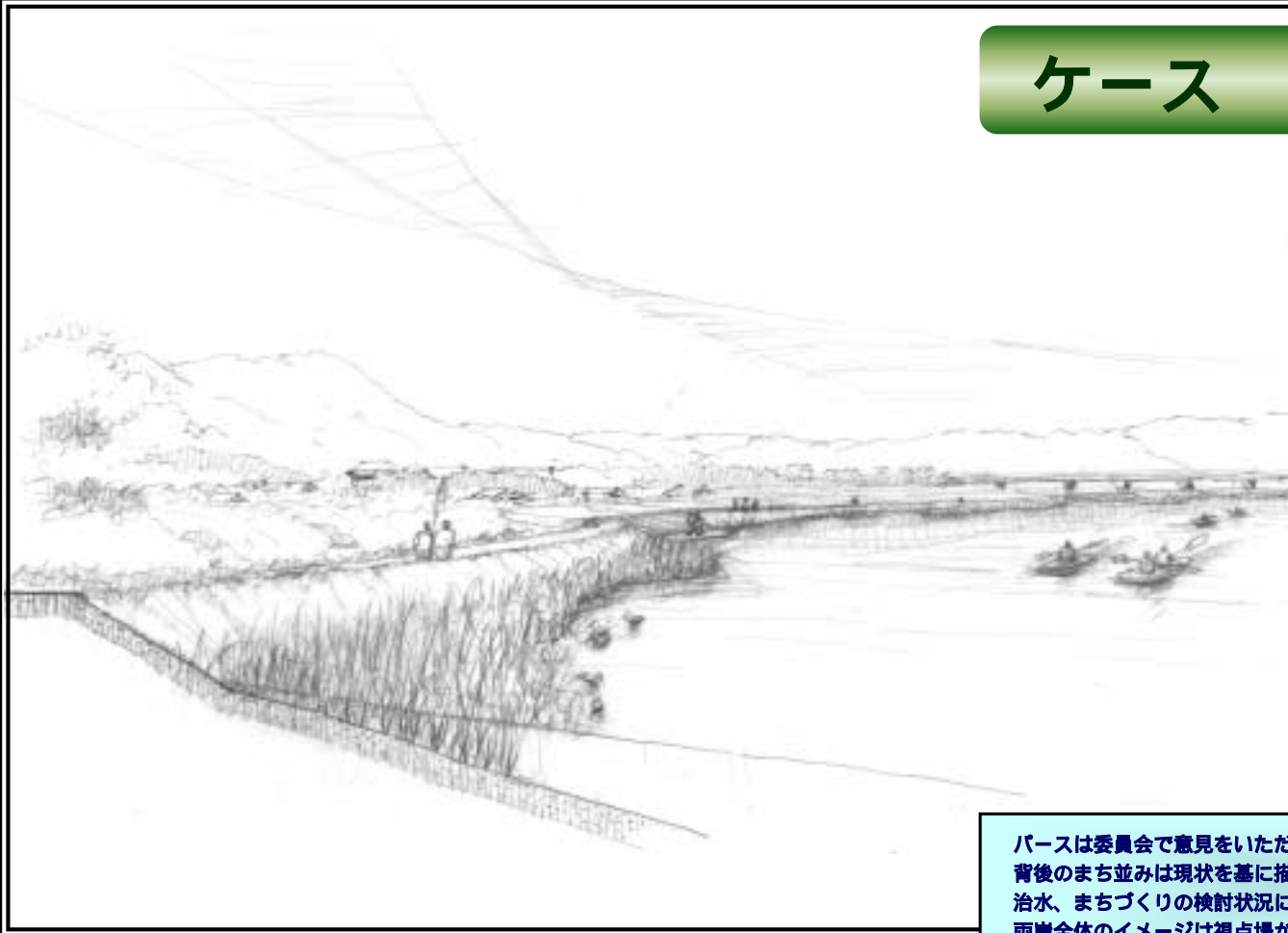
ケース



パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

両岸全体のイメージ 中流部

ケース



ケース

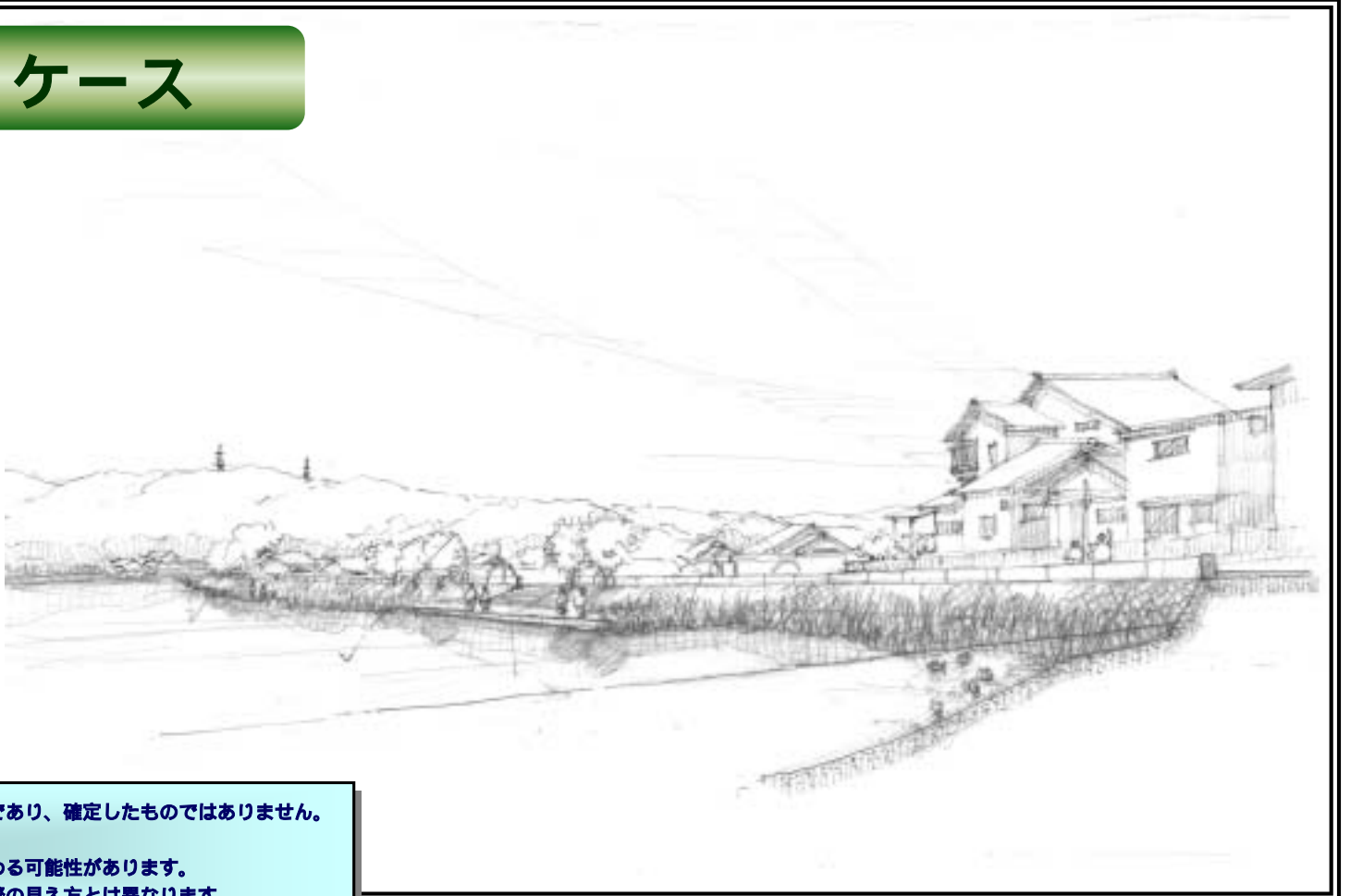


パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

ケース



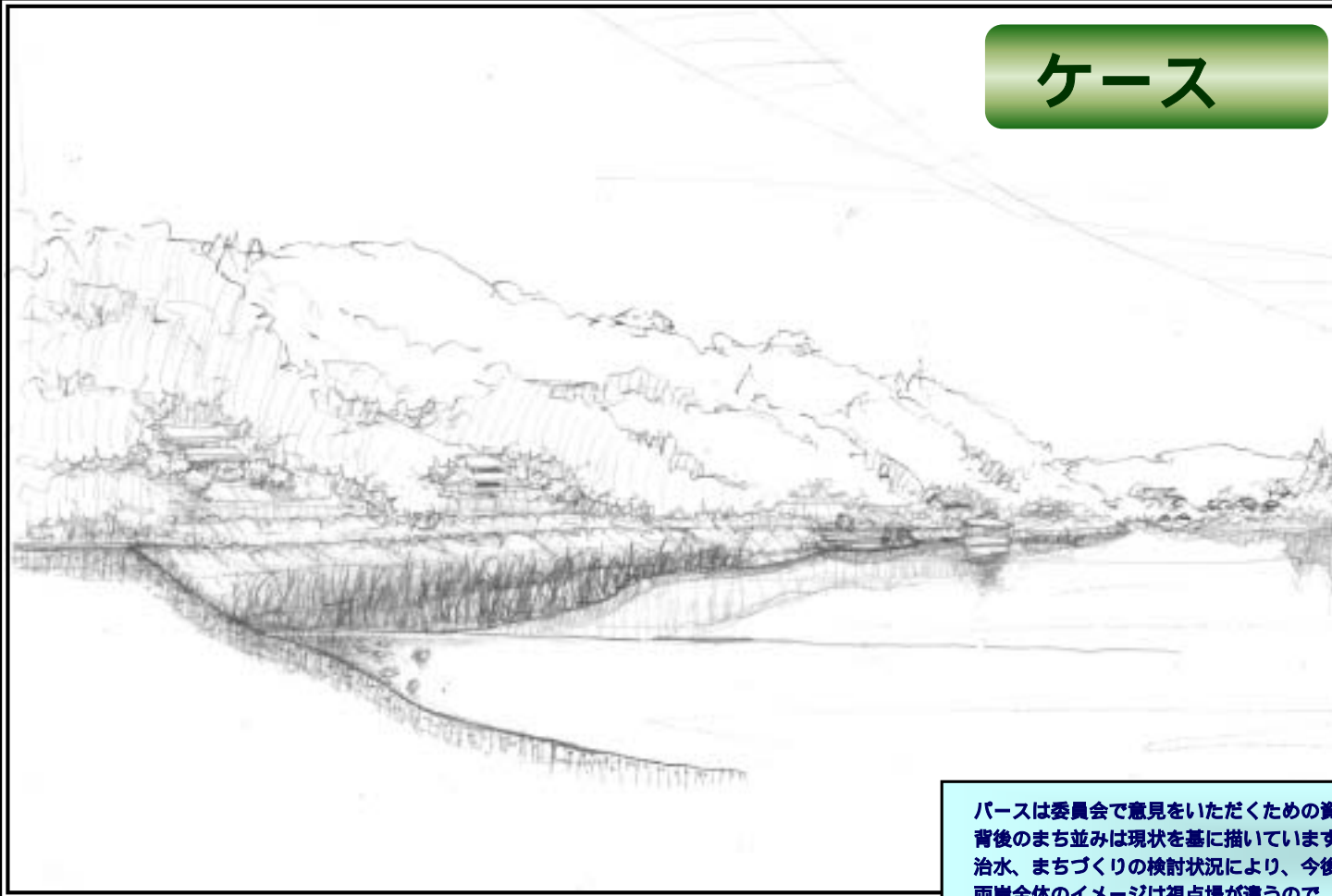
ケース



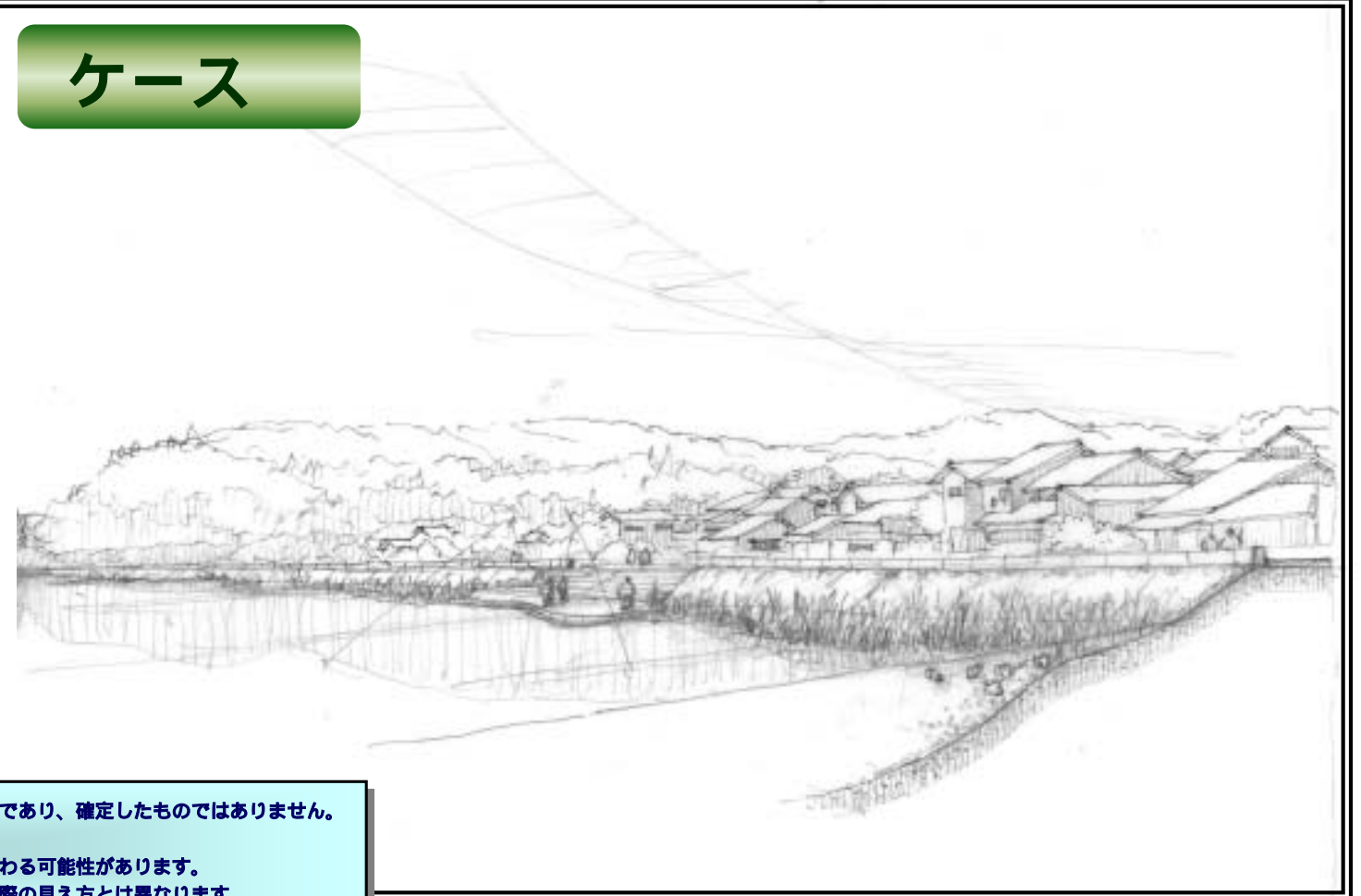
パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

両岸全体のイメージ 下流部

ケース

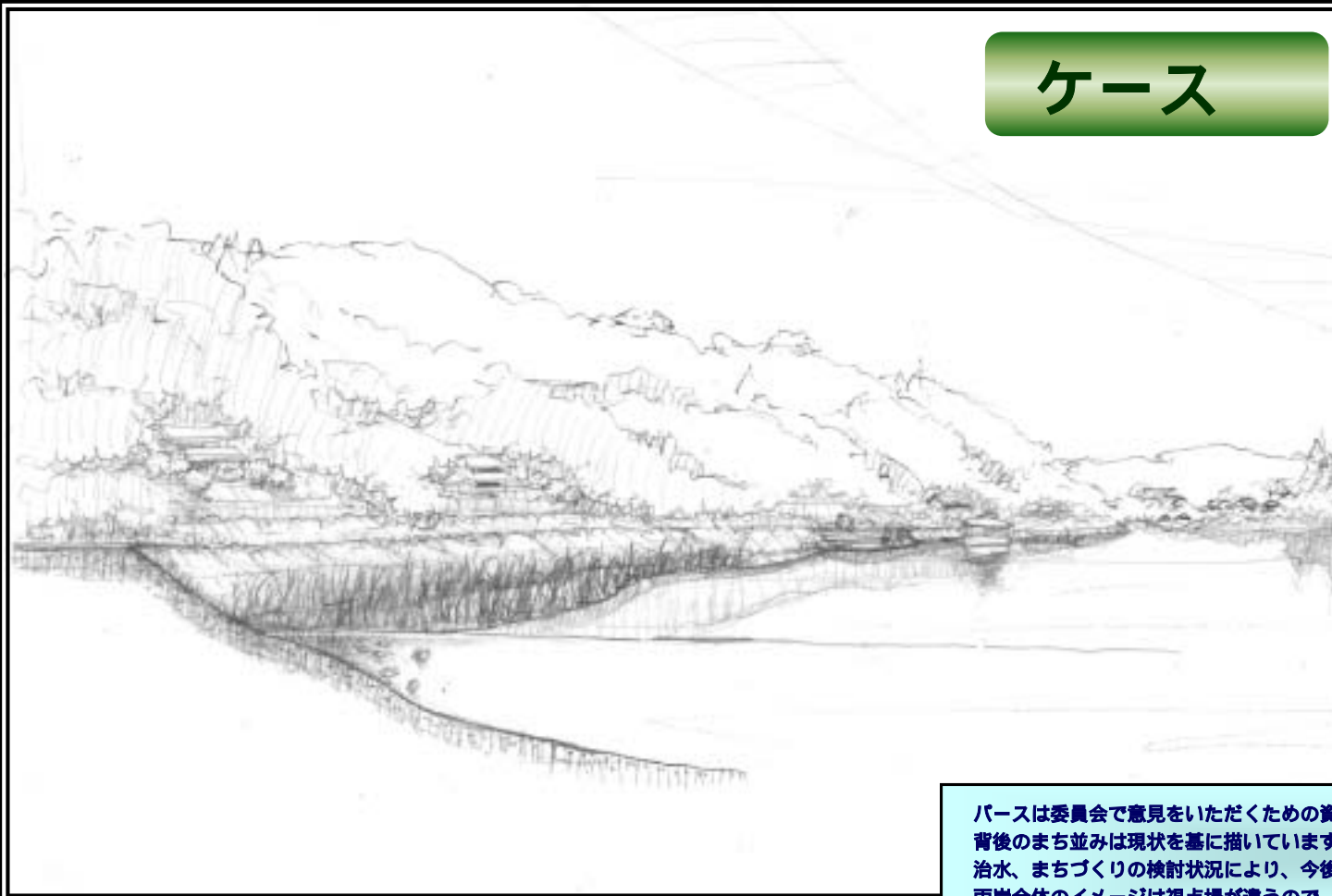


ケース



パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。

ケース



ケース



パースは委員会で意見をいただくための資料であり、確定したものではありません。
背後のまち並みは現状を基に描いています。
治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。
両岸全体のイメージは視点場が違うので、実際の見え方とは異なります。